

岐阜大学夏期短期留学

サマースクール2014



GRIFFITH UNIV.



SEOUL NATIONAL UNIV. OF
SCIENCE & TECHNOLOGY



GIFU UNIV.

岐阜大学
GIFU UNIVERSITY

Summer School 2014 Report Contents

巻頭言

潮の香が教えてくれたこと

夏期短期留学（派遣）

開催一覧	3
実施協定大学の協定内容等	3
グリフィス大学	5
平成26年度 JASSO 奨学金受給者修了報告書（抜粋）	34
ソウル科学技術大学	47
参加者アンケート	57
編集後記	66

日本から海外に留学している学生数が現在約6万人であり、これを2020年には倍増の12万人に増やす目標が国の施策として立てられています。本学でも日本人学生の海外留学に対して支援体制を強化しつつあり、派遣数の増加に努めているところです。

今年度のサマースクールの派遣事業には、オーストラリアのグリフィス大学に20名（5週間コース）および韓国のソウル科学技術大学に3名（2週間コース）が参加いたしました。本冊子には参加者の今回の留学に関する体験談を紹介しております。拝見しますと、留学前にはいろいろな不安を抱えておりましたが、帰国時には達成感とか満足感を抱く参加者がほとんどで、滞在中充実した時間を過ごしたことが伺えます。他の国からの参加者と比べて日本からの参加者のほとんどが英語のリスニング力とスピーキング力が弱いことを挙げており、滞在中にそれらの力が伸びていくのを感じ取って嬉しく思ったことなどが綴られております。間違いを恐れず、積極的に話しかけ、自分の気持ちを何とか伝えようとする姿勢が大事であると感じる学生が多いようです。また、講義のない時間帯や週末にはいろいろなアクティビティーに参加することによって異文化の理解、コミュニケーション能力の増進に努めていることも伺えます。グリフィス大学への参加者は、ホストファミリーとの生活を通じて得るものが多いこ

とも述べられております。

ほとんどの学生がホストファミリーのホスピタリティーに対して感謝の意を

表しております。今回の留学で得た経験を今後の生活に役立てていこうとする気持ちも伝わってきます。参加した学生のほとんどが、語学力をさらにつけて再び海外に出かけたいと考えています。留学中に多くの友人ができたことを財産とする学生も多くいます。

このように5週間あるいは2週間という短期間ではありますが海外留学で得られる経験には目を見張るものが有り、多くの学生にその経験を積んでいただきたいと思う次第です。次年度以降もこの派遣事業は続きますので、多くの学生に海外留学に是非挑戦していただきたいと思います。

本事業を実施するにあたり、多大なご尽力ご協力をいただいた国際企画課（留学生支援室）の職員、留学生センターの教職員ならびに事前研修でお世話になった学生諸君に感謝申し上げます。本冊子が、今後海外留学を目指す学生諸君に参考となる情報を提供することを祈念しております。また、本冊子には、お忙しい中、国際・広報担当鈴木文昭理事から「潮の香が教えてくれたこと」と題して寄稿いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。



「潮の香が教えてくれたこと」

岐阜大学理事（国際・広報担当）副学長 岐阜大学国際戦略本部長 鈴木 文昭



私は子供の頃から海辺に出かけるのが好きです。潮の香が運んでくる「海の向こう」からの誘いを感じるからでしょうか。15歳のある夏の昼、いつもより大きな船が港に接岸して、小集団が下船しているところに出くわしました。「グット・ダイ」そう言って、数人がにこやかに近づいて来ました。「トゥダイ・イズ・？・ホリダイ、ユウ？」とも言っていました。突然の事で「グット」、「イズ」と「ユウ」しか聞き取れず、私は真っ赤な顔でその中の一人と握手するのがやっとでした。家に帰って、その時間いた言葉を何度も頭の中で繰り返してみると、「Good day!」とか「Today is a holiday, you?」と言っていたように思えてきました。世の中はこんなものなのか、少しだけ嬉しくなりました。外国の方が私たちに母語で話すとき、内容は単純で、しかも簡単な単語を使ってくれれば、その時以来信じることにしました。このことは、今でも外国語や外国の人たちに対する私の接し方の基本となっています。言葉は状況が作り出すもので、特に相手と友好関係が成り立っている場合は、「推理とカン」が対話を進めるのに意外に役立っています。

一方、相手に外国語で伝えることが大変に難しい

ことには異論はありません。解決する近道は、耳にした発音とリズムそしてその時の状況を思い出し、実際の場面で何度も使ってみることかと思っています。その都度、意の伝わり方を感じ取ることも大切です。複数の外国人と一緒に遊ぶことも良いかと思っています。もちろん、短期留学が最も効果的な実践だと思います。今年の夏にグリフィス大学とソウル科学技術大学へ短期留学された20名と3名の皆さんは、きっと実感されたことと思います。もう一度出かけて、もっとブラッシュアップしたい。そんな思いで帰国された方も多いのではないのでしょうか。

これから海外に出かけてみたいと思っている皆さんも、この冊子の海外留学経験者からの貴重なメッセージを基に、ご自身の留学計画を立ててみてください。留学生センターの教職員をはじめ国際企画課（留学生支援室）スタッフは皆さんの海外留学を支援します。多くの皆さんが、自らの意志で海外に向き、海外留学経験を積み、豊かな未来を創造されることを期待します。岐阜大学は皆さんの海外活動を応援しています。

夏期短期留学（派遣）

2014年度サマースクール（派遣）開催一覧

大 学 名	国 名	日 程	参加人数	宿 泊
グリフィス大学	オーストラリア	8月13日（水）～ 9月21日（日） 5週間	20人	ホームステイ
ソウル科学技術大学	韓 国	8月2日（土）～ 8月16日（土） 2週間	3人	大学寮

サマースクール実施協定大学の協定内容等

大学名（英文名）	初回協定締結日	協定内容	交換可能学生数	サマースクール 初回参加年
グリフィス大学 GRIFFITH UNIVERSITY	1995年3月3日	学生交流（交換留学・ 授業料等免除） 研究者交流 情報交換等	4人	2002年8月
ソウル科学技術大学 SEOUL NATIONAL UNIVERSITY OF SCIENCE & TECHNOLOGY	1992年3月19日	学生交流（交換留学・ 授業料等免除） 研究者交流 情報交換等	3人	2008年8月

グリフィス大学

●オーストラリア グリフィス大学参加者名簿（合計20人）

日程：2014年8月13日（水）～9月21日（日） 5週間プログラム

	氏 名	学 部	学年
1	荒 川 雄 太	工学部人間情報システム工学科	3
2	林 兼 輔	工学部機能材料工学	3
3	酒 井 道 隆	工学部数理デザイン工学科	3
4	水 谷 綾 乃	応用生物科学部応用生命科学課程	3
5	茶 谷 一 誓	工学部社会基盤工学科	2
6	佐 藤 多 恵	工学部社会基盤工学科	2
7	堀 隆 太 郎	工学部機械工学科	2
8	井 上 嵩 史	工学部機械工学科	2
9	川 井 考 生	工学部機械工学科	2
10	荒 川 華 恵	工学部化学・生命工学科	2
11	土 屋 有 希	工学部化学・生命工学科	2
12	日比野 隼 大	工学部化学・生命工学科	2
13	内 田 景 子	工学部化学・生命工学科	2
14	米 田 朴 利	工学部化学・生命工学科	2
15	星 野 智	応用生物科学部生産環境科学課程	2
16	宮 内 香 名	応用生物科学部生産環境科学課程	2
17	西 川 萌	医学部看護学科	1
18	竹 中 将 貴	工学部機械工学科	1
19	犬 塚 健 太	工学部電気電子・情報工学科	1
20	今 枝 磨 耶	工学部化学・生命工学科	1



事前研修について

オーストラリアに行く2か月前から試験期間前までの2か月間、事前研修があった。週3回、16:30～18:30の2時間だった。オーストラリアからの交換留学生と長期留学経験のある先輩が交代で講師をしてくれた。日ごろから英語を話す機会が全くない自分たちにとっては絶好の英語を話す練習の場であった。簡単に読める中学レベルの文章も、自分で考えて話すとなれば話は別だ。研修が開始した当初は、言いたいことが英語でまともに言えず、ここまで英語を話せないのかと、落ち込んだ。しかし、事前研修が自分の英語に対するモチベーションを上げてくれた。自主的に学習した内容、文法を事前研修で使うことができるからだ。語学研修の内容としては主にスピーキングに重点を置いたも

のであった。研修と言っても学校の授業のように固いものではなく、テーマに沿って自由に英語で話すようなものであったり、単語を当てるゲームをしたり、気楽な雰囲気が教室に漂っていた。事前研修で、英語が急激に上達する訳ではないが、研修が進むにつれて、周りの参加者の英語が上達していくのを感じることができた。

また、事前研修では、サマースクールの参加者が対象となっているので必然的に他の参加者と顔合わせすることができ、オーストラリアに行く前に友達になることができた。また、オーストラリア人の講師が、オーストラリアの文化についての話をよくしてくれたので、オーストラリアについての知識も得ることができた。研修を通して、オーストラリアに行く前に英語に多く触れることができ、慣れることができたことが大きかった。実際にオーストラリアに到着してからは英語しか使えない為、英語で会話することに慣れていないと、うまく会話できなかったと思う。現地に到着した翌日にスピーキングテストがあり、それで5週間過ごすクラスが決まってしまうので、少しでも上のクラスになれるように、来年のサマースクール参加者には参加することを強く勧めたい。

（荒川 雄太）



事前研修の講師陣

後列 武田憲人さん（教育学部）、平田 百さん（地域科学部）
前列左から 金武李佳さん（教育学部）、マオ・ロアンさん（オーストラリア、シドニー工科大学）、ヒル・ジュリエット・マリーさん（オーストラリア、シドニー工科大学）

事前研修は、6月～7月の中旬にかけて開かれました。週に三回、毎週月水金の午後4時30分から約二時間程度英語の研修が行われました。講師の方たちは、交換留学生や英語を専攻とされている学部生たちでした。その人たちが、英会話やリスニングの練習を丁寧にしてくださいました。また、オーストラリア独特の生活習慣など海外ならではのことも教えてもらいました。

僕は、月曜は自分の専門科目と被ってしまっていたので、水曜と金曜の研修には参加するように心がけていました。英会話を教えてくれる研修は、このような機会しかないと思っていたので積極的に取り組みました。自分の英語のスキル（英会話やリスニング、ボキャブラリー）にはあまり自信がなかったけれど、研修を受けているうちに少しは良くなったと思いました。研修は、自己紹介や日常で何をして



私は授業で、先生が「間違いは友達だ。」と言っていたことが、とても印象に残っていますし、実際にこの言葉で私は大きく変われたと思います。日本では間違いをすることが悪いことだと教えられ、私たちは、間違ふことは恥ずかしいことだと思いがちです。しかし、間違ふことで自分の出来ないことや分からないことを知ることができ、初めて学ぶ意味があるのだと教わりました。私はこの5週間、自分のSpeaking力の弱さに何度も向き合わされました。伝えたいのに言葉にならない悔しさに辛くなったり、クラスメイトが楽しそうに話すのを隣で笑って見ていただけの自分が情けなく感じたりしました。でもこの言葉を先生に言われてからは、自信を持って間違いと向き合えることが出来ました。GELIではもちろん英語をたくさん学び、英語の力は少しですが上がったと思います。でも私にとってはかけがえのないクラスメイトという仲間たちや素晴らしい先生に出会えたこと、そんな人たちに囲まれて学べたことが何よりの財産だと思います。

（西川 萌）

私は5週間、GE4Cのクラスで学びました。Writingテストは日本で既に受けていたので、授業初日はSpeakingテストがありました。1対1で先生と簡単な会話をするものでした。私は、「家族構成はどんな感じですか?」と「なぜオーストラリアに来たのですか?」という質問をされました。緊張しましたが、温かい雰囲気 of 先生だったので落ち着いて自分の言いたいことが言えたと思います。

月曜日から授業が始まりました。私のクラスはベ

トナム、クウェート、サウジアラビア、中国、日本から学生が来ており、多国籍でした。英語が母国語でないクラスメイトと英語で会話するのもまた、非常に勉強になりました。クラスメイトも含め多くの学生が数年間はオーストラリアで学ぶ予定だと言っていました。

1番最初の授業でまず自己紹介をしました。夢や目標をしっかり持っているクラスメイトに刺激を受けました。授業は文法やListening, Readingをバランスよく学び、特に文法は丁寧に説明してもらえました。私たちは主にbe going toとbe supposed toの違い、未来形(will, be going to, ing形)の使い分け、仮定法(Zero conditional, First conditional, Second conditional), ifとwhenの使い分け, ifとin caseの使い分けを学びました。英語で英語を学ぶと、用法やニュアンスの違いをより理解できたように思います。また、日本ではみんなの前で分からないところを聞くのをためらってしまいましたが、ここではいつでも質問してもいいというクラスの雰囲気がありました。そして先生はみんなが分かるまで、しっかりと教えてくださいました。受け身ではなく、積極的に自分から学びに行く姿勢が大切だと思いました。

5週間の授業のなかで最も印象に残っているのが、プレゼン発表をクラスメイトと先生の前でしたこと。「オーストラリアの動物」をテーマに、パワーポイントまたはPreziというソフトを使って5人くらいのグループに分かれて発表しました。私のグループはカモノハシについて発表しました。クラスメイトと共同して作業ができて楽しかったし、何より英語でプレゼンテーションをすることが初めてだったのでとても良い経験になりました。このプレゼン発表で学んだことは、聞き手の方を見て堂々と、言いたいことをしっかり強調して話すことが大切だということです。発音も意識しなければならない重要な部分ですが、何より英語のリズムを意識し、強調する部分を明確にして、伝えようとするのが最も重要だと感じました。

そして毎日宿題が出ました。プリント1～2枚でそんなに難しくはありませんでした。また、5週間のうち2回Writingの宿題が出ました。出されたテーマについて書いて提出し、添削されて返ってきた後、Rewriteして提出しました。先生がしっかり見てくださったので、細かなミスや表現の仕方をよ



く学べました。

2時間の授業が2コマあるのは長いなーと思っていましたが、あっという間に5週間が終わってしまいました。この授業を通して、国境を越えた仲間ができたこと、学ぶ積極性が身についたことが一番の宝物です。

（土屋 有希）

クラス分けのため、出発前研修のときにライティングのテストがあり、オーストラリアに到着した次の日の金曜日にスピーキングのテストがあり、その次の週の月曜日から授業が始まりました。教科書は、文法の教科書が一冊とリーディング用の本を一冊貸してもらい、学校が決めたカリキュラムに沿って学習していきました。

一週間の流れとしては、月曜日から木曜日までは教科書に基づいて文法を学び、金曜日にその一週間に学んだことを25分程度でテストするというものでした。金曜日にリーディングの本を読む時間も長く取られていました。このリーディングの本は章を区切って宿題にしてくる先生や、宿題にはならず授業中に音読しようという先生などさまざまでした。

また、月ごとにクラスや先生が変わるという仕組みになっており、5週間ごとに区切られていました。1から4週は文法を行い、5週目にはクラス進級のためのリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの大きなテストが月曜日と火曜日にあり、その週の残りはグループごとにテーマに沿って話し合い、プレゼンをするというものでした。

クラスは15～20人程度の少人数制で、誰かに問題を当てるのですが、そのあたった本人より先に答える人がいたりして、みんなで問題を解いていくというような感じでした。授業のなかでは隣の席の人

とペアになって質問しあったり、グループを作って議論したり、教科書のリスニング、プリントを配ってリーディング、また短いライティングもしました。ライティングは先生がすべて見て細かい間違いを教えてくださいました。先生はとても気さくで話しやすかったです。授業の内容はわたしのクラスは高校生レベルの文法でしたが、習ってからすぐに生活で使え、とても役に立ちました。

また、クラスメートは中国、オマーン、モロッコの人などで国のことを聞きあったりしてほかの国のことを知ることができて楽しかったです。特に中国の人は日本語を習っていたことがある人がいて話が弾みました。

授業はとてもよかったです。文法を改めて習い、しかも英語だったので新たな発見もできました。今回のサマースクールでこの語学学校に通えてよかったです。とても貴重な経験ができました。

（今枝 磨耶）

私はサマースクールに参加し、グリフィス大学に5週間通いました。大学では英語以外を母国語とするいろんな国からの留学生と英語の授業に参加しました。

授業自体は中学生が習うくらいの基本的な文法などで難しくはありませんでしたが、参加型の授業、クラスメイトとのコミュニケーション、グループワークは新鮮なものでした。

まず感じたのは、学生たちの授業への姿勢の違いです。外国の留学生は自ら進んで発言し、積極的に質問していました。みんなの前で間違えることを恥じていませんでした。そんなクラスメイトの姿に押され、私もだんだん進んで発言できるようになりました。授業は二人の先生が日替わりで受け持っていました。先生はゆっくりははっきり発言してくれるのでとても聞き取りやすかったです。一方、留学生の英語は出身国によって発音に特徴があったりして、はじめは言葉を聞き取るのが難しかったです。でも、授業でディスカッションしたり、放課後に雑談したりするなかで徐々に聞き取れるようになり、仲良くなることができました。

授業のなかでは、国家間、地域間の習慣や生活、思想の違いが話題に挙がることも多く、単に英語を学ぶだけでなく広い視野を持つことができるようになりました。

グループワークでは、はじめはなかなか意志疎通が上手いかなかったり、考えが違ったりして思うように進まないこともありました。それでも、互いに互いを理解しようとするうちに分ってきて、グループ発表を成功させることができました。

グリフィスでの授業で私は英語を話すこと、人とコミュニケーションをとることの楽しさを知りました。でも、一番の収穫はかけがえのない多くの友人を得たことです。

(内田 景子)

[illegible]

授業は毎日12時45分終わるので、放課後にはたくさんの自由時間があります。その時間に何をするか、自分で決めることができます。

GELIはほぼ毎日学生を対象にアクティビティを実施しています。私はボウリング大会やサッカー大会、スカイポイントの観光などに参加しました。GELIの学生には特別割引があったり、担当のスタッフが現地まで連れて行ってくれたため、気軽に参加でき、観光地を知るきっかけにもなりました。特にスカイポイントの展望デッキからの眺めは格別で、よくテレビで目にするような、サーファーズパラダイスとその周辺の海岸線、それに沿うようにして立ち並ぶ高層ビルを一望でき、サンセットも見ることができました。

もちろん、英語の学習も継続的にしました。ILC (Independent Learning Centres) では、インターネット環境が整っており、GELI が提供する教材を使ってオンラインで自主学習をすることが出来ます。その日の授業の復習や、週末のテストに向けて勉強をしました。

時には中国人の友人と中華料理を食べに行ったり、クエート人の友人とランチに行ったりしました。彼らは皆親しみやすく、ご馳走してくれるときもあ



りました。また、外国人の友達とはもちろんですが、仮にそこに同じ国同士の友達がいたとしても、母国語ではなく英語で会話をしたり、海外の友達に英語でうまく伝えられないときは、ジェスチャーや表情で伝えようと試みました。結果的にそれがコミュニケーションを円滑にし、さらには他国の文化を学べたり、交友関係を広げられたりしました。コミュニケーションにおいて一番大切なことは、伝えようとする気持ちと、それを理解しようとする気持ちだと痛感しました。

ゴールドコーストには、バスや電車に加え、G : link というモノレールが市内を走っており、短時間で、サーファーズパラダイスやムービーワールドなどのさまざまな観光地へ足を運ぶことができるため、午後からでも十分に観光を楽しむことができました。特にハーバータウンは帰り道にあったので、頻繁にショッピングを楽しめ、ファミリーにおすすめの店を聞いては、次の日に行くことさえ可能でした。

日本と比べ店の閉まる時間が早く、毎日6時半頃には家に着いていたため、ファミリーと過ごす時間が十分にとれ、また、家庭学習をする時間も確保することができました。夕食時などには、次の日の放課後の計画についてファミリーと話し合ったりもしました。

(川井 考生)


 せっかく自分の体験を書く機会をもらったので、私しか体験していないことを書こうと思います。まず、このサマースクールプログラムは、授業が1時に終わるので放課後の時間がいっぱいあります。そして五週間と時間も長いので、何か打ち込む事が無いと暇を持て余すかもしれません。

その事を見越していたわけではないのですが、私はスケートボードを買って、時間があれば家の近くの公園でずっと練習していました。これは私が感じ

た映像をもう一度見たり、授業の内容に沿って復習したりすることができ、さらに自分の英語力を高めることができた。

2つ目は、家に帰ってホストファミリーと会話をしたり、買い物にいったりすることである。ホストファミリーと一緒にいることは自然とリスニング力を向上させることができ、さらにホストファミリーととても親しくなれた。家によっては、毎晩英語のレッスンをしてくれる家もあった。

最後の1つは、買い物に行ったり、テーマパークに行ったり、海に行ったりすることだ。大学の近くにはハーバータウンやオーストラリアンフェアといった買い物ができる施設が多くあり、バスやトラム（路面電車）を利用することで簡単に行くことができる。同様にテーマパークや海も手軽に行くことができる。テーマパークはムービーワールド、シーワールド、ウェットウンワイルド、ドリームワールドなどが近くにあり、ムービーワールド、シーワールド、ウェットウンワイルドの3か所へ行くのであれば、この3つの年間パスポートを買うことをお勧めします。普通に行くよりも格段に安いです。

放課後も自分の英語力を向上させることができた。買い物も遊びに行く時も店員やお客さんはみんな外人であるため、話すことはすべて英語である。放課後の充実が留学の充実につながると思う。

(竹中 将貴)

1つ目は、GELIの3階にあるILCというコンピュータ室で自主勉強をすることだ。授業で使われ

ホームステイ

ザー、社会人の息子、大学生の息子、そして韓国人のステイメイトがいました。ステイメイトは日本語を話せたので、初めは留学生としては嫌だなと思っていましたが、学校について色々と教えてくれたり、一緒に登校してくれたりと親切だったので嫌悪感はなくなりました。ホストファザーは僕が帰宅した時には家にいたため、学校のことやどこに遊びに行っていたのかなどの会話を楽しむことができました。ホストマザーは会話していて僕の文法が間違っていた時に直してくれたので、勉強の支えになりました。帰国する1週間ほど前に、スイス人の留学生が新たなステイメイトとなりました。彼とは英語で楽しく会話することができました。

食事について、朝食はシリアル、昼食はサンドイッチとバナナとチョコバーと大体決まっていた



が、夕食はハンバーグやラザニアなど毎日違ったので学校帰りに夕食を楽しみにしていました。朝食に納豆を出してくれた時があって、驚いたとともに、嬉しかったです。食後、食器を洗おうとしましたが、水に浸けるだけでいいよと言われたので、少し申し訳なかったのですが、その言葉に甘えさせてもらいました。

洗濯は毎週金曜日、シャワーを浴びる時間は4分と決まっていました。初めは少し戸惑いましたが、水不足が原因なら仕方ない、これもオーストラリアでの生活の一部だと思い、郷に従いました。このことから水の大切さを実感することができたとともに、日本がいかに水に恵まれているかを認識することができました。

オーストラリアでの生活が始まる前に抱いていた不安はいつの間にか消えていました。又、優しく親切なホストファミリーのおかげで、充実した5週間となりました。

（米田 朴利）

私が5週間滞在したのは、ホストファザーである Michael (Mike)、ホストマザーである Susan (Sue)、長期留学の中国人ステイメイト Erica と犬の Henglee がいるお宅でした。Mike と Sue は60代の夫婦、Erica も大人だったので、落ち着いた雰囲気のおうちでした。

私の家では、夕方にみんなでニュースを見て、Mike は夕御飯の準備、Sue はお気に入りのドラマ視聴、夕御飯を食べ、その後はみんなでテレビ (Mike は腰痛のため別室) という流れが定番でした。ニュースの時間では内容の中で気になることや分からなかったこと等を質問したり、夕御飯後のテレビの時間ではその日の出来事やお互いの国、家族のこと等

を話したりしました。ここでは基本的にそれぞれ自分の好きなように過ごすので、宿題をしたり、家族と連絡をとったり、ひとりでゆっくり過ごすという時もありました。

出発前に心配していた食事の面では、あらかじめ苦手な物を伝えておいたこともあり、全く苦になりませんでした。オーストラリアの食事をたくさん食べることで、オーストラリアと日本との食事メニューに対する考えの違い（フライドポテトが立派なおかずになるなど…）を、身をもって感じることができました。またランチボックスも日本とは違って（サンドウィッチが定番メニューだったり果物がそのまま入っていたり…）面白かったです。

ネイティブであるファミリーが話す英語はとても早くて、ほとんど聞き取れないときが本当にたくさんありましたが、そんなときは何回も繰り返して言ったり違う表現を使うなどして、私が分かるように工夫してくれました。その繰り返しで少しずつですが、だんだんと理解できるようになりました。あるときは10分ほどLとRの発音の練習をしてもらうなど、speaking の勉強もできました。学校では主に文法や会話表現・実践などなので、発音のように細かいことを学べるのはホームステイならではの思います。

最初は英語もまともに話せないのにホームステイなんてできるのかと不安でした。しかし今ではホームステイができて良かったと思っています。日常生活の英語が学べることはもちろん、人と人とのつながりを得たり現地の文化に触れるなど、本当に多くのものを得ることができました。

（宮内 香名）

私のホストファミリーはファザーとマザー、そして時々遊びに来る息子さん家族と、ブリスベンに住むいとこの家族でした。私の祖父母とファザー達、私の父と息子さん、私とお孫さんが同じ歳くらいで、ファザーの趣味がガーデニングと共通点がとても多く、すぐに馴染むことができました。また、私がこの家の初めての留学生とのことで、張り切って一緒に予定をたててくれ、土日は必ずホストファミリーと出かけました。ショッピングセンターやビーチ、動物園、ラグビー観戦、バー、レストランに行ったり、野菜の収穫やドライブ、お菓子作り、ゴルフをしたり、近所の人達を呼んで寿司パー



ティやバーベキューなど、初めての経験がたくさんできました。そしてホストファミリーの親戚や友達などいろんな人と出会い、話すことができました。平日は帰ると手作りのビスケットやケーキなど毎日おやつを準備して待っていて、今日は学校で何があったか聞いてくれるので、それが楽しみで急いで帰りました。私のわかりにくい英語を一生懸命聞いてくれて、友達の名前まで覚えてくれました。ファザーは宿題を見ただけでなく、パソコンを使って私の知らないことをたくさん教えてくれました。マザーは料理がとても上手で、キッチンのカウンターに座って本を読みながら夕食の準備を見るのが日課だった私に、作り方を教えてくれたり味見をさせてくれたりしました。また、風邪をひかないように上着を貸してくれたり、足が悪いのにもかかわらず私が道を覚えるまで一緒に歩いてくれたりと、

本当の家族のように愛してくれました。現在一人暮らしをしている私にとって、このあたたかい家族と過ごす時間は本当に幸せで、毎日が夢のように楽しくて、I'm happy!が口癖でした。最後に私のファザーが教えてくれたことがあります。それはずっと笑顔でいることと、諦めずに続けることの大切さです。この時、ホストファミリーがずっと笑っていたから私も笑顔でいられてこんなに幸せだったのだと気づき、私も周りの人を笑顔にさせるような存在になりたいと強く思いました。そして辛い時にはこの言葉を思い出して、必ず夢を叶えていつかホストファミリーに伝えに行きたいです。

（荒川 華恵）

私のホストファミリーは、ホストマザーだけでした。しかし、とても恵まれていたと感じています。なぜなら、私のホストマザーはパーティーやお話、映画がとても大好きなマザーだったからです。しかも、常にジェスチャーと共に話してくれたので理解がしやすかったです。また、時間のある日などは、一緒に英語の字幕付きの映画を見て、それについて話したりするなど英語に触れる機会をたくさん作ってくれました。もともと私は英語が苦手で、オーストラリアへ行くまではちゃんと意思の疎通ができるかなどの不安がありましたが、どんなに話すのが遅くても笑顔で待っていてくれたり、間違えたときは私の英語をなおしてくれました。熱心に聞いてくれるので、しゃべることがだんだん楽しくなっていき、会話の時間が日に日に増していったように思います。また、私は最初の日まったく英語を話すことができなかったのですが、ホストマザーが、私の緊張をほぐすために知っている日本語を披露してくれたり、とてもフレンドリーに接してくれました。

平日は、朝食は自分で作って食べていくという感じでしたが、料理が趣味らしく、夜はいつも豪華な食事を用意してくれました。私のホストマザーはとても優しく“何か手伝いましょうか？”と聞いてもいつも何もなくていいよと言ってくれたり、予定が入ってしまってホストマザーの友達の家でのバーベキューに行けなかった次の日は、ホストマザーと私しかいないのに庭でバーベキューをしてくれました。また、いつも宿題を見てくださいました。間違っているとところなどは身振り手振りを加えて丁寧に説明

してくれました。

この5週間は自分にとって語学勉強のためだけではなくコミュニケーションの取り方の勉強でもあったと思います。同じ言語を満足に話すことができない

い人とのコミュニケーションは、考え方の違いがあったりと大変でしたが勉強になりました。

(佐藤 多恵)

[illegible]

グリフィス大学のサマースクールでの休日
 は一日中自由な時間だったので、私はホーム
 ステイ先にはおらず、様々な場所に行きました。今
 回はどこに行ったのか、また、どういうところが面
 白かったのかを紹介していきたいと思います。

私はまず、最初の土曜日はブリスベンの市街地に行きました。これはあらかじめ岐阜大学が行くように手配していたもののようですが、グリフィス大学からブリスベンまでは貸し切りバスで1時間ほどでした。その日は最初に博物館に1時間ほど行きました。博物館には、恐竜の化石や、サメの標本、昔の木の模型などがあり、オーストラリアにも歴史があるのだということを改めて認識しました。その後はブリスベン市内を観光したり、買い物をしたりなどしていました。

次の日の日曜日は、ゴールドコーストのテーマパークの一つである Sea World に行きました。ゴールドコーストのテーマパークには、Sea World の他に、Movie World, Wet'n Wild, Dream World の四つがありますが、Sea World と Movie World と Wet'n Wild の三つセットになっている VIP PASS を僕は買っていたので、かなりお得な値段で行くことができました。また、Dream World に関しては、グリフィス大学でチケットを格安で買うことができたので、私はグリフィス大学でチケットを買いました。

た。各テーマパークには、それぞれの特色があります。Sea World はイルカやシロクマ、アシカなどがいるテーマパークで、水上スキーのショーなども見ることができます。Movie World は、ワーナーブラザーズ系列の映画をモチーフにしたアトラクションが数多くあり、自動車の派手なショーなどもありました。Wetn Wild はプールのテーマパークで、サマースクールの時期は少し寒いものの、乗ったこともないスリル満点なウォータースライダーがいくつもあり、とても興奮しました。Dream World は多くの乗り物があり、コアラやカンガルーなどの動物とも触れ合うことができる総合的なテーマパークです。迫力のあるジェットコースターなどもあり、とても楽しめました。

そして、これら四つのテーマパークの他に、私は学校のアクティビティに申し込んで、フレーザー島にも行きました。フレーザー島は、純血のディンゴなどがいるとても自然あふれる島でした。この島には一泊二日で行きましたが、朝早くに集合して、4WDの車高の高い車に乗って、5時間ほど車を走らせた後にフレーザー島に着きました。フレーザー島に着いたすぐ後に、海辺で昼ご飯を自分たちで作って食べたり、きれいな海を見たりしました。しばらく車で移動した後に、断崖絶壁の海岸が一望できる崖の上にも上ったりしました。夜は周りをディンゴから身を守るためのバリケードを張り巡らせた集落のような場所に泊まったりしました。

また、私はせっかくオーストラリアに来たという事で、シドニーにも行きたいと考えていたので、グリフィス大学にいる間に飛行機などの予約もして、友達と休日にシドニーにも行ってきました。日程の都合上、シドニーには日帰りで行くことになっていましたが、行きたいところをオペラハウスとハーバーブリッジとセントメアリー大聖堂に絞ったので、時間のロスなくシドニーも満喫することができました。

このように、私はオーストラリアの休日では様々



なことをして、非常にいい経験をしました。これからグリフィス大学のサマースクールや、別の大学のサマースクールに行くことを考えている人たちも、休日の予定は、自分たちでどのように過ごすのか計画を立てて、積極的に外に出てみるのがいいと思います。

（茶谷 一誓）

このプログラムの休日の過ごし方として、有意義に過ごせるかは本人次第だと感じました。私のホストマザーは、毎日のように外出するよう勧めてくれたのでホームステイ先にいた時間よりも外出していた時間の方が長いと思います。実際、週一日家でだらだらしたいと思っていましたが、今思えばマザーに感謝です。私は、基本的には岐大生と週末を過ごしていました。ショッピング、グルメ、テーマパーク、観光、祭りなどなどです。私は、持参したお金のほとんどを食事に当てました。外食は日本に比べ高額でしたが、おいしいものをたくさん食べることができました。ゴールドコーストショーでは、年に一度ということもあって始まる一週間前あたりからテレビでも宣伝があり、QLD 全体が盛り上がっていました。そして、面白いものも数多く見ることができました。また、テーマパークでは少々お金はかかりますが、年間パスを利用するなどして行けたので良かったと感じています。私が行ったドリームワールドはアトラクションのみではなく、



オーストラリア特有の動物も見ることができるのでお勧めです。おかげで動物園に行く手間が省けました。

やはり、オーストラリアを知るには休日に行動することが大切だと思います。今、百万人以上の人々が tram を利用しています。来年このサマースクールに参加する人は、是非とも tram を活用してあちこち散策することを勧めます。

（井上 嵩史）

参考資料

<http://www.brisbanetimes.com.au/queensland/brisbane-live-wednesday-september-17-2014-20140917-3 fxqx.html>

オーストラリアでの休日は、ショッピングや海に行ったり、年間パスポートを買って遊園地や水族館に出かけたり、グリフィス大学が紹介してくれるアクティビティに参加したりしました。

その中でも強く記憶に残っているものが3つあります。フレーザー島、フリーマーケット、スキューバダイビングです。

フレーザー島はグリフィス大学が紹介してくれた1泊2日のアクティビティで、今回のサマースクール参加者が最も多く参加したアクティビティでした。世界遺産であるフレーザー島は独特な生態系が見られることで有名らしく、私たちもデインゴやシーイーグルに出会うことができました。夜になって海岸へ星を見に行くと、言葉では表せないほど感動的な星空が広がっていました。南半球に位置するオーストラリアでは、星座が上下反転して見える他、南十字星など、日本では見られない星の姿を見ることができました。

フリーマーケットへは、予定のない休日を利用して1人でゴールドコーストを散策している途中で立ち寄りました。カラーラマーケットと呼ばれているそこは、個性豊かな店が数多く点在していて見るだけでもとても面白い場所でした。綿菓子でチュウリップを作っていたり、蛇を首に巻く体験をさせてくれるところがあったり、ポニーに乗ってマーケット内を散策させてくれるところもありました。また、そこで販売されている果物などは新鮮でとても安く手に入るため、現地の人々からも人気があるそうです。お土産屋さんでは、商品を他より比較的安く販売しているところが多かったです。ただ

し、わけあり商品が多いため購入の際には注意しなければなりません。簡単に補修できるものがほとんどですが、慎重に選ぶ必要があります。実際に自分も失敗しました。さらに個人で営業している店では、交渉次第で安くしてくれるところもありました。そういう店では基本的に現金のみ使用できるので、事前に用意していくか、なければそこにある ATM でカードから引き落とせます。気さくな店員さんが多く、英語を通して、楽しく充実した時間を過ごすことができました。

最後にスキューバダイビング。これは日本を飛び立つ前からやろうと決めていたことだったので、イベントの中でも最も楽しみにしていたことでした。集合場所に到着してスーツに着替え、ボートに乗り込み、無人島の海岸へと向かいました。その海は、

きれいなエメラルドグリーンをしていて、ボートの上からでも海底の魚たちが確認できるほど澄み渡っていました。説明を受けた後、浅瀬で練習して、そのままダイビングを始めました。ここでは魚に餌付けができ、どこからともなく集まってきた魚たちに視界がうめつくされました。それが終わると、そのまま魚たちと一緒に海中を泳ぐことができました。自分の右も左も、頭上でさえもオーストラリアの魚たちが泳いでいて、経験したことがない、不思議な感覚にとらわれました。彼らに囲まれながら泳いだことはとてもいい思い出です。

オーストラリアではアクティビティが比較的安く
できることがあるので、休日を利用して何か試して
みるのもいいかもしれません。

(堀 隆太郎)

* ◆◆◆◆◆ アクティビティ ◆◆◆◆◆ *

・ボーリング&レーザータッグ

オーストラリアに来て、初めて大学で申し込んだアクティビティのボーリング&レーザータッグ！参加人数は他の国籍の人を合わせて15人くらいで、そのうちほとんどが日本人！！というより岐阜大生（笑）ばかりでした。授業後、グリフィス大学のアクティビティ担当のカイリさんとLet's go！トラム（路面電車）に乗って、バスに乗り換え、約1時間でロビーナショッピングセンターに到着！！ショッピングセンター内は大変広く、たくさんあるショップの一角にボーリング&レーザータッグ場があった。ボーリング場は日本と全く同じで、平日の昼間だからかあまり他の客がいない。カイリさんと同じレーンだったがりアクションが大きく、さすがはオーギー。Wow！！

続いてレーザータッグ！日本であまり見ないこれは、レーザー銃と専用の的のついた装備をして赤と緑のチームに分かれて、障害物などがおかれた室内で隠れながら敵の的を狙い、ポイントを取り合うゲーム。これがかなり面白い!!日本にないのが本当に残念。

・フレーザー島

フレーザー島は僕のホストマザーがそこのホテルで働いており、絶対行った方がいいと勧められた場所でした。世界一大きくすべて砂でできた島として、

世界遺産にも登録されています。参加者13人で当日午前6時にサーファーズパラダイスに集合（ホストファザー送ってくれてありがとう）し、バスに乗り込んで、一泊二日の旅へ！ Let's go!! みんな朝が早すぎてバスの中で就寝。8時ころには目が覚めてバスから見える景色を見たり、おしゃべりをしたりした。…………あれ！？遠すぎない！？休憩まだなの？トイレに行きたいのだけど。そうこうしているうちに休憩地点に到着し、一休み。良かった。そこからまたレインボービーチまでバスの中で2時間ほど。昼にレインボービーチに着き、休憩し、いよいよフェリーに乗り島へ!!

島に着いたら、森を抜けて静かなビーチでランチ





タイム！昼食はバスの運転手が準備してくれたサンドイッチ、綺麗な海を眺めながらのランチは格別！ランチを終えたら別のポイントに出発！ビーチを豪快にドライブ、シートベルトをつけないと体をどこかに打つけてしまいそうなほど（笑）。豪快すぎて別のバスはパンクしてしまった。救援のためにいったんここで休憩。ということで、海であそんだり、バスの乗客とおしゃべりをしたりしていた。バスの乗客は、スイス、フランス、イギリス、アメリカ、韓国など世界中から来ていた。イギリスのアシリアとフランスのエミリーとは、つたない英語で頑張っ

て喋った。バスの修理が終わり、また豪快にドライブ。途中ディンゴ（人を襲う犬）を見たりして、次のポイントであるイーライクリークに到着！綺麗で驚くほど透明な小川で、時間がなかったのでできなかったが泳ぐ事もできる。次のポイントはマヒーノと呼ばれる嵐によってこの島に流れ着いた船！すごい迫力だった。次はインディアンヘッドと呼ばれる岬！岬から眺める夕日と海岸線は最高！！美しかった。日も落ちてきたので、またもビーチの豪快なドライブとともにホテルへ！夕食はbuffetでスープがおいしかった。食後に日本語が喋れるドライバーが星空を見に行こうと誘ってくれたので見に行った。今まで見た事のない星空！開いた口が塞がらないほどの絶景でした。その後部屋に戻り、色々ハッピーニングがあったが、なんとか収まり、就寝。疲れていたものでぐっすり寝込むことができた。翌日、朝日を見て、朝食を済ませ、熱帯雨林のポイントを40分

ほどウォーキング！朝の澄んだ空気と神秘的な森に癒された。ウォーキングはアシリアやエミリー達と行い、自分の国や食べ物などについていっぱい話した。その後、森の中をドライブ（本格サファリみたいで、もはやアトラクション）して、島の湖へ！白い砂浜で、透き通った水で青い湖！幻想的なところでした。水着に着替えて、Let's swim! が、寒っ！！寒いけど我慢して少し泳いで、ビーチバレーなどをして、バスに戻った。来た道に戻り、フェリーに乗り、レインボービーチで昼食を取り、サーファーズパラダイスへ戻り帰宅した。

本当に行って良かったと思った。勧めてくれたマザーに感謝します。

（日比野 隼大）

今回のグリフィス大学、GELIにおける約5週間の留学では、英語の授業だけでなく様々なアクティビティがGELIから提供され、自分たちで選択することでそれぞれの活動に参加することができました。無料で参加できるものも多く、有料のものでも個人で申し込むより安い価格で提供されているので、とてもお得でした。

私が今回参加したアクティビティの中で印象に残っているのは、Q1という建物の展望台、Skypointへの観光です。Skypointは地上77階の展望台で、ほぼ360度見渡すことができます。通常のアクティビティの予定では1時過ぎに到着し、日中の空を覗く予定でしたが、天候不良が続いたため、特別に年内一回限り有効のチケットをGELIからもらいました。

そこで私と友人は日の入りの時間に合わせてskypointに向かい、きれいな夕焼けを見物することができました。もちろん昼間の光景も素晴らしいものだと思うので（写真を見た感想ですが…）、いろいろな時間に出向くことで様々な楽しみがあると感じました。

このようなGELIから提供されるアクティビティの数々において、とても重要な人物がいます。それはいつも4階の受付にいるKyleです。彼女はアクティビティの受注や付き添いを行っています。そのためアクティビティに参加する際には、彼女を訪ねなければなりません。彼女はいつも元気100%で私たちを迎えてくれました。たとえ彼女の説明が聞き取れなかったり自分の英語が通じなかったとして

も、いつも親切に対応してくれました。彼女の笑顔に癒され、助けられたメンバーは自分を含め少なくはないと思います！

また、これらのアクティビティとは別に、メンバー全員でブリスベン観光に行きました。これは今回の留学の内容に含まれるもので、グリフィス大学からバスで1時間ほど離れたブリスベンという市街地をまわるというプログラムでした。大学から出発したのち、Queensland Museum というオーストラリアの歴史や自然がつまった博物館に行きました。化石や動植物の標本、オーストラリアが開拓されどのような発展を遂げてきたかなど、様々な分野の知識を得ることができました。そこから Brisbane CBD というとても大きなショッピングモールで昼食と買い物をしました。建物が大きすぎてすべての店を回りきることができませんでしたが、面白い雑貨屋やブランド店が立ち並んでおり誰でも必ず楽しめる場所

だと感じました。そして最後に Mt Coot-tha という小高い山の展望台に向かいました。今回の観光ではあまり天候に恵まれなかったものの、そこからの景色は素晴らしかったです。今思えば、skypoint のような海沿いの高い場所からの景色とは別の見ごたえがあり、とても満足しています。

今回私が紹介したもの以外にも多くの活動が存在し、それぞれに参加すべき価値があると思います。岐阜大学のグループメンバーと一緒に参加して楽しむのはもちろん、アクティビティに参加する他のGELIの学生とも友達になり、英語を活用する場を展開していくことも可能です。滞在中は予算の範囲内で過ごすことがとても大事ではありますが、日本と同様に島国であるオーストラリアの独自の文化や景色に触れることができるので、多くのアクティビティに参加することをおすすめします!!

(星野 智)

[illegible]

留学するにおいて重要だと思ったことは入念な準備です。僕は留学する日を勘違いして覚えていました。思い込みによって確認を怠り、出発当日の朝まで気づきませんでした。一緒に留学する人の中の一人に朝電話をかけてもらい、はじめて気づきました。飛行機が離陸するのが11時です。9時半にはみんな手続きを済ませ終えている中、自分はまだ家にいました。幸いなことにパッキングは2日前に済ませてあったためすぐに家を出ることができました。親の運転で空港に向かいました。着いたのが10時45分です。距離と時間的に無理と言われて

いる中、奇跡的に間に合いました。そこからの手続きはキャプテンが事情を話しておいてくれたためとても迅速に事が済み、10時55分に飛行機に乗り込むことができました。多くの人に心配と迷惑をかけ、非常に申し訳なかったです。

この経験から準備を早めに行い、確認をしっかりしなければいけないと改めて思いました。飛行機の中は季節が夏でも寒いので防寒をしっかりしたほうが良いと思います。機内食は基本的に洋食と和食の選択制で自分の好きなほうを選べるのがうれしかったです。また、経由するシンガポール空港で空き時



(犬塚 健太)

シンガポールからオーストラリアに向かうときから飛行機のアナウンスが英語になり、殆ど聞き取れず焦りました。自分達以外の乗客に日本人はほぼおらず、これから英語しか話せない環境になる、ということを実感して不安になりました。シンガポールからオーストラリア間でオーストラリアに入るための入国カードが配られました。今考えると当然ですが、それは全て英語で書かれており、もちろん全て英語で答えなければならなかったことに当時は戸惑いました。その時私は何の準備もしておらず、皆に

帰国の際のオーストラリアからの出国、日本への入国のチェックはオーストラリアへの入国審査に比べると軽いものだった上、行きの時に一度やったことをもう一度やっているような感じだったため、行きほどの緊張感はありませんでした。帰りの飛行機に乗っているとき、今自分たちが地球のどの辺りにいるのかを示すレーダーのようなものを、自分の席のモニターで見えていました。見ていると、自分たちが乗っている飛行機が5週間過ごしたオーストラリアから離れていく様子がよくわかり、感慨深いのと同時に少し寂しくなりました。

(水谷 綾乃)

括

また、間違いを恐れずに思っていることをどんどん話しました。たった5週間という限られた時間が、後悔しないようにと背中を押してくれたのだと思い



ます。明日は今日よりも成長したいと日々考えながら過ごしました。一日の終わりに反省をし、小さくてもいいから次の日の目標を決めて必ず達成するということを毎日繰り返しました。自分と向き合い、見つめ直すことができ、濃い時間になったと思います。

そんな私を支え、応援してくれたホストファミリーとオーストラリアが大好きでたまらなくて、もっとたくさん話したい、気持ちを伝えたいという思いから、英語の勉強も毎日頑張ることができました。この5週間は私にとってかけがえのない宝物です。私は留学を通して、英語だけでなく、感謝、愛、笑顔の大切さを学ぶことができました。たった3つで、どこでも誰とでも心が通じ合えるのだと自信がつきました。このことを忘れずに、夢に向かって一步一步前進していきたいです。

（荒川 華恵）

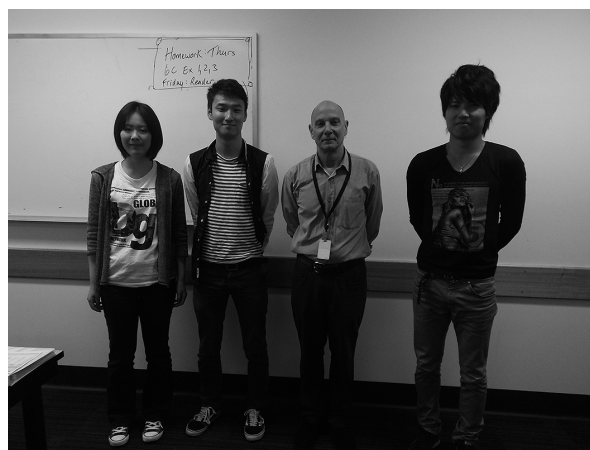
3年生となり、やっとオーストラリアに行くことができた。というのが、今の正直な感想である。1年生の頃からこのプログラムを知っていたが、なかなか勇気が出ず、参加を2回見送ってしまった。今回、参加して本当に良かったと思っている。オーストラリアで過ごした5週間は多くのことを経験でき、これからの自分に大きく影響を与えるものとなると思う。もともと英語が好きで話せるようになりたいとは思っており、また海外で生活してみたいという思いはあった。今回の5週間というプログラムは長くもなく、短くもなく自分にとって適切だった。また、自分の英語がどれほどのものなのか確かめてみたかった。

オーストラリアの生活は日本とは大きく異なっており、すべてが新鮮に感じた。英語で受ける授業、

ホストファミリーとの会話、10時には寝る早寝早起きの生活、とてもまぶしい太陽と乾燥した空気、そこらにいる見たこともないカラフルな鳥やオウム、バスの乗り降り、買い物、ポピュラーなスケボーでの通学、すべてがわくわくした。授業に関しては、高校でやった文法を少し詳しく、再び学んだという感じであった。英語を英語で学ぶという今までに経験したことのないものだったが、楽しかった。

また、アジア、中東などからの留学生と一緒に学び、友達になり、ご飯を食べに行ったこともあった。授業が終わった午後からは、大学が提供するアクティビティーに参加したり、町に出かけたりした。休日になると、遠くへ出かけたりもした。ゴールドコーストはテーマパークが多く、遊びに行くには格好の場所であった。またフレーザー島という世界最大の砂の島へのツアーに参加したこともあり、オーストラリアの大自然を肌で感じることもできた。

肝心の英語はというと、到着した当初、ホストマザーが何を言っているのかわからなかった。オーストラリアのなまりもあるが、自分の英語力の程を



知った。しかし、英語づけの毎日を送っていると、なんとなくだが見えるようになっていき、気付くと日常会話もそれとなくできていた。今回のプログラムを通して、英語をコミュニケーションツールの一つとして使えるようになった。英語がペラペラ話せるという事ではない。春休みに海外旅行に行ったときには、自分の英語が間違っているのではないか、などの思いから積極的に英語を使おうとは思わなかった。しかし、英語しか使えない環境と、クラスメイトが文法は間違っているけど、堂々と話す姿勢、うまく話せなくても相手はきちんと理解しようとしてくれるのを見て、完璧に英語を話さなくても大丈夫であって、今なら堂々と使うことができる。5週間の海外の生活はとても貴重な経験となった。日本とどうしても比べてしまいがちだったが、オーストラリアの人々はとてもフレンドリーで居心地が良かった。道ですれ違う人に Hi ! と言うと必ずみんな笑顔で返してくれるのだ。見ず知らずの人でも気さくに話し合っているのをよく見たが、日本では考えられないことであって、文化の違いだと思ったとともに羨ましく思った。

今回のプログラムを通じて、以前より英語を話せるようになりたいと強く思うようになった。現地で、長期留学や、ワーキングホリデーしている日本人と出会ったのだが、彼らとの出会いも自分に新しい考え方、生き方があることを教えてくれ、貴重な出会いとなった。今、自分には、いろいろな選択肢がある。このまま就職していくのか、大学院に行くのか、それともワーキングホリデーに行くのか、このサマースクールが自分の可能性を広げてくれたような気がする。この経験をただの思い出にしないよう、英語学習を継続的に続けていきたい。最後に、このプログラムに関わったすべての人に感謝を伝えた。ありがとうございました。

（荒川 雄太）

■ GELI での生活は岐阜大学での毎日とは異なり、8時15分に授業が始まり2時間の授業が2コマ行われます。しかしそれ以降はフリータイムなので、自分の好きなように過ごすことができました。毎週金曜日には小テスト、さらに5週間単位で大きなテストが存在するため、決して余った時間のすべてを遊んで過ごすというわけにはいきません。しかし、そのなかでもお金と時間をうまく使う



ことでさまざまな経験を得ることができました。

クラスではもちろん、日本人だけが勉強しているわけではありません。私がいた GE4C というクラスには、中国・サウジアラビア・クウェート・ベトナム出身の学生が在籍していました。彼らの大半は GELI で英語を勉強したのち University に進学するというのもあって長期滞在している人が多く、私たちのような日本人学生よりもはるかに listening や speaking 能力に長けていました。最初はその事実にただただおびえて何もできない自分がいました。しかし同じクラスということもあり、writing などは私たちとあまり変わらない（むしろ日本人のほうが得意かもしれない）ということに気づいてからは、自ら進んで発言しクラスメイトと話す機会が増えていきました。5週間のプログラムを終えるころには、先生の話もよく理解できるようになり、何よりも様々な国籍の友人を持つことができました！

今回のサマースクールにおいて私が一番得たものは様々な「交流」です。前述のとおり、クラスメイトや先生からは様々な話を聞きました。また、アク

ティビティのガイドや様々なショップの店員と会話することで、学校では教わることでできないような話も聞くことができました。それらすべて、それぞれの国柄や慣習、言語など興味深いものばかりです。サウジアラビア出身の男子学生は「僕たちは彼女を作ることができないから、いつも通りすがりの女性を見ているのだ」と口にし、中国出身の男女は「日本が好き！特にアニメが大好きで、今度秋葉原に行くつもりだ」と言う（彼らに紹介されたアニメはどれもコアな物ばかりで、私は一つも知りませんでした）。これはやはり、外国人に囲まれた環境にいるからこそ経験です。

またこのような経験は、外国人に限ったことではありません。もちろん Griffith Universityに通うために GELI で長い間勉強している日本人もいますし、夏休み期間ということもあって、様々な大学からサマースクールとして GELI を訪れる日本人学生がいました。英語で話す機会が減ってしまうから必要ない！という意見もあるとは思いますが、日本人として大学周辺で気をつけることなどの生活知識や、彼らの経験、日本で学んでいること、英語を学ぼうとしている動機など日本人同士だからこそ知ることができ共感できる部分も多いと思います。それらは今後、英語を学んでいく上で決して無駄にはならない経験だと私は今感じます。

今回のサマースクールは、僕に大きな影響を与えてくれました（もちろんいい意味で）。悔いはありません！そしてホームステイ先と人間関係に我慢は禁物です!! 笑

（星野 智）

海外に行ってみたい。どうせなら留学でホームステイをして語学力を高めたり、現地の人と交流したりしてみたい。そんな気持ちから私のサマースクールは始まりました。海外に行った経験もない、飛行機に乗ったこともない、ましてや、英語がとても苦手な私が5週間もオーストラリアで生活なんてできるのだろうか…と留学前は不安でいっぱいでしたが、今ではそんな不安を懐かしくさえ思います。

GELI では、国籍を問わずたくさんの友達ができました。日本人は他の国の人たちに比べて Speaking が苦手で、私自身も思っていることを相手に伝えられない悔しさに何度も向き合わされまし



た。でも、クラスメイトや先生がきちんと話をきいてくれ、わからないときは助けてくれたおかげで、授業を楽しく受けることができたし、Speakingをはじめとする語学力を向上させることができたと思います。ゲームになるとみんな一層盛り上がり、本当にノリのよいクラスで笑い声が絶えませんでした。二人の先生には英語はもちろん、英語以外のことについても多く教わりました。特に「間違いは友達だ。」という言葉には、学ぶということの本質を教えてもらったように思います。この言葉のおかげで私は大きく変わったと思うし、挑戦することが楽しいと感じるようになりました。

4人家族のホストファミリーはとても親切で、私をまるで本当の娘のように可愛がってくれました。日本では考えられないほど大きな家、毎日のおいしい食事（ファミリーがイタリア人だったので、毎日イタリアンでした）、素敵な家族、とても幸せな環境でした。初めはゆっくりと話してくれる英語さえ聞き取れず、ましてや緊張もあり、yes / no しか答えられないような状況でしたが、ホストファミリーは私のつたない英語を理解しようと努めてくれたおかげで、楽しく会話をすることができました。8歳の Jayden はやんちゃだけれど本当は甘えん坊でさみしがり屋です。たくさんいたずらをされたけれど、寝られないからそばにいてという彼をかわいく感じていました。今では愛おしい私の弟です。少し複雑な家庭環境ではあったけれど、仲が良くて、信頼し合える、あったかい家庭でした。私はホストファミリーがこの家族で本当に幸せでした。

放課後や休日には、サマースクールのメンバーと様々なところへ出かけました。スクールアクティビ



ティーに参加して、フレーザー島やボーリング、Q1に行ったり、ショッピングやテーマパーク、ビーチ、カフェに遊びに行ったり、スキューバダイビングをしたりと、多くの思い出を作ることができました。サマースクールのメンバーはみんな個性的で面白い反面、様々なことに意欲的で、学部、学年は違ってもお互いに尊重し合えるメンバーでした。みんながいたからこそ、留学を楽しめたといっても過言ではありません。また、クラスメイトの中国人の友達ととても仲良くなり、放課後に二人で街に遊びに行ったこともありました。お互いの家族や国、夢などをたくさん英語で話しました。お互いに上手な英語ではなかったけれど、おしゃべりをして笑いあった時間は楽しくて、かけがえのないものとなりました。

オーストラリアは本当に素敵な所です。親切な人たち、美しいビーチ、きれいな街、おいしい食べ物、快適な気候…。このオーストラリアという地で私は大きく成長できたと思います。もちろん語学力も少しは上がったと思いますが、それ以上に、英語でいろんな人とコミュニケーションをとることが楽しいと思うようになりました。大切なのは、伝えようと努力することで、たとえぐちゃぐちゃな文法だとしても、大きな声で一生懸命に話すことなのだと思います。今年限りで決めていた留学でしたが、今すぐオーストラリアに戻りたいと思うほど、楽しく、刺激的なものでした。それに比べると日本での生活は刺激が少なく、少しつまらないと感じることもあります。でも、留学での経験を生かしていけるよう、興味のあることには何にでも挑戦し、失敗や間違いを恐れずに努力をしたいと思いますし、それが今回

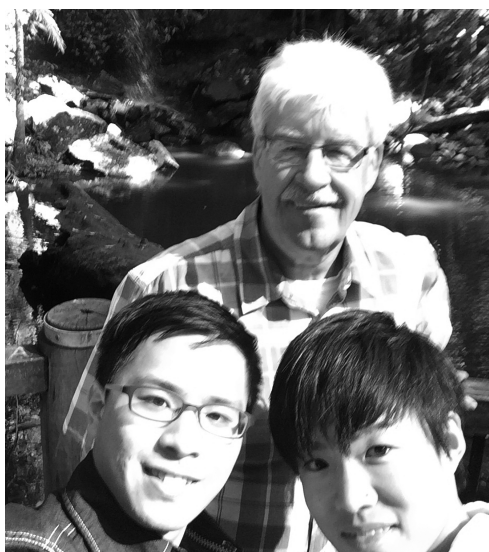
のサマースクールを支えてくれた、友達、先生、留学メンバー、ホストファミリー、そして私の家族に対する恩返しになると思います。そしてこの経験を自分自身の今後の糧にして、夢に向けて一つ一つ前進していき、また今度オーストラリアに行ったときには、日本で成長した私としてホストファミリーや友達と笑顔で再会したいです。

（西川 萌）

今回サマースクールに参加した動機は、大きく分けて二つあります。一つ目は、語学力の向上です。夏休みという期間を使い、現地の生の英語に触れ、それを自ら使うことで英文法の勉強を中心としている日本では、なかなか習得できない「使える英語」を学びたかったからです。また、現地での勉強を通して、将来英語を使えるようになるための勉強法を見出し、帰国後にそれを実践したかったからでもあります。そして二つ目は、広い視野をもち、将来の選択肢を増やすためです。日本にいるときは日本という国、そこに住む自分、を主観的にしかとらえられませんでした。実際に外国に足を運ぶことで、それらを客観視し、日本という国は世界ではどのように見られているのか、またそれを踏まえ、将来自分はどのようにになりたいのか、アイデアを見つけたかったからです。

実際にオーストラリアには、今まで経験したことのない環境、見たことのない文化が広がっていました。また、聞いたことのないフレーズが飛び交っており、十年以上勉強してきたはずの言語が、まるで別の言語に聞こえるほどでした。レストランでコーヒーを注文することさえうまくいかないこともあり、目に入るすべての光景が新鮮で、毎日が勉強でした。

GELIの授業はすべて英語で行われたため、少しずつ聞き取れるようになり、喋れるようになっていくことに喜びを感じました。また、他の国から来ている学生は、日本人と比べ積極的に発言します。まさに、「日本人は謙虚で礼儀正しい」と言われる理由を、身をもって感じたと同時に、私自身それに刺激され、間違いを恐れずチャレンジすることの大切さに気づき、積極的に話すようになるきっかけになりました。授業ではもちろんのこと、普段の生活も学んだ英語をすぐ実践できる場なので、その場で知識をツールに変えることができました。さらに毎



日夕食後には、必ずファミリーと話す時間をもつようにしました。街で耳にした聞きなれないフレーズの意味や使い方を教わったり、オーストラリアと日本の違いから始まり、世界の話に発展したりもしました。話が理解できないときは、分からない、と正直に言えば、具体例を示してくれたり、一緒に辞書やパソコンを使って調べたりすることで新たな発見もありました。私にとってそれはある意味、学校よりも多くのことを学べ、大変価値のある時間でした。

そんな中、私がサマースクールに参加してよかったと思える新たな理由を滞在中に見つけました。たとえば、私が初めて訪れる場所でバスの時刻表を見ると、現地の人が、「どこに行きたいの?」と

笑顔で尋ねてくるのですが、それが一回、二回ではないのです。日本ではめったに目にする光景ではありません。まさにそれがオーストラリア人の人柄を象徴しています。また、それを最も感じさせてくれたのは、私のホストファミリーでした。彼らはいつも笑顔で私に接してくれ、私の言うことに耳を傾けてくれました。時には真剣に彼らに相談をしたり、冗談を言って笑い合ったときもありました。そこにはよそよそしさもとどろいもなく、まるで本当の家族のようでした。普段のそんな些細なことが、ホームステイ先を自分の家だと思えるきっかけになり、それ以来、不思議と異国の地での生活にも慣れていきました。そこにはファミリーの思いやり、心の豊かさがある、それが何度も私を支え、そして楽しませてくれたのです。そして気づけば、オーストラリアという国を心から好きになっていました。自分も彼らのように人間味のあふれた人になりたい、そして次は誰かに恩返しをしたい、そう思いました。

5週間という限られた期間でしたが、家族にも友人にも恵まれ、人生で最も充実した夏休みを過ごすことができました。また、この経験を今後の生活に活かすために、目標に向けて何事にもチャレンジする気持ちを持ち続け、いつかお世話になった人たちにいい報告がしたいと強く思います。

（川井 考生）

■ 僕がオーストラリアのグリフィス大学のサマースクールに行くことを決めたのには、いくつかの理由があります。まず一つ目の理由としては、英語力の向上です。近年ものすごい勢いで世界はグローバル化しています。そのような傾向に敏感になるためにも、実際に海外に行って、生の英語を味わいたいと思いました。そのためには、サマースクールというのはいい機会だと感じました。二つ目の理由は、異国の文化、生活に触れることで、自分の視野を広げたいと思ったからです。日本国内にいただけでは、他国の文化に十分に触れることができず、いろんな国の人の考え方を理解することはできないと感じました。他国の文化に触れるためにも、グリフィス大学のプログラムのホームステイなどには非常に魅力を感じました。

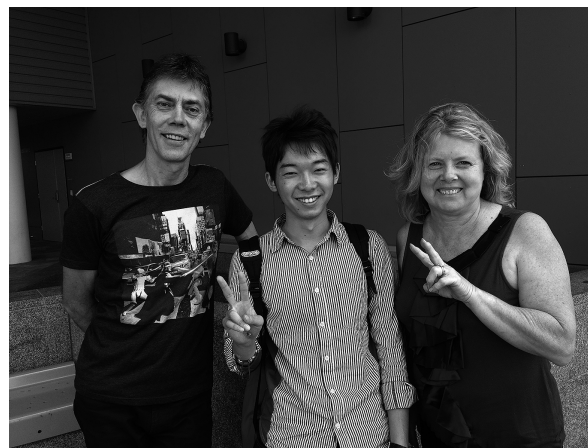
このサマースクールの5週間では、本当に色々な経験をしました。毎日が様々なことの発見で、とて



も新鮮でした。まずグリフィス大学に着いて、ホームステイ先の家族と対面して、いきなり英語をどんどん使わなければならない状況になりました。最初のホームステイ先での夜を迎えた時には、言語の壁はやはり大きいと感じましたが、日が経つにつれ、ホストファミリーがどういう人たちなのかが分かってくると、私のつたない英語でも、積極的に話すことによって、ファミリー達とも仲良くなることができました。また、最初は土地勘もなく、ましてや、バスのカードの使い方も知らなかったので、分からないことだらけでした。しかし、同じホームステイ先のルームメイトに学校までの行き方を教えてもらったり、自分で家の近くや大学周辺を散策することによって、海外での生活の仕方を学ぶことができました。

平日の大学の講義では、クウェートやサウジアラビア、中国の留学生たちと一緒に英語を学んでいました。グリフィス大学の英語の授業は私にとってとても新鮮なものでした。日本の英語教育のように、ライティングとリーディングだけでなく、スピーキングやリスニングなども授業の中に豊富に取り入れられており、さらには発音やイントネーションなどについても深く学ぶことができました。平日の午前中は英語の講義を受け、午後は講義が無かったので、自分でその日の予定を立てたりして、過ごしていました。その午後の時間を使って、他の国の留学生とショッピングに行ったり、中国人の留学生に向こうのおいしい中華料理の店を教えてもらって、一緒に食べに行ったりもしました。

休日は講義がないので、休日に関しても、自分で



予定を立てて積極的に色々な場所に行くようにしていました。私は、ゴールドコーストにある様々なテーマパークに行ったり、学校のアクティビティの一つとしてあった、世界遺産であるフレーザー島に行ったり、岐阜大学の友達数人と計画して、飛行機でシドニーにも行きました。シドニーは飛行機でゴールドコーストから片道一時間ほどで着けるので、グリフィス大学のサマースクールのついでに観光に行くのもお勧めです。シドニーでは、有名なオペラハウスを見たり、世界で一番車線数が多いことで有名なハーバーブリッジなどを見に行きました。また、ハイド・パークの近くにあるカトリックのセント・メアリー大聖堂も見に行きました。なんと、大聖堂に行った当日には、結婚式が行われており、海外の結婚式の様子も知ることができました。

このように、グリフィス大学のサマースクールを通して、多くの知識を付け、様々な経験をすることができました。そして、異国の学生の友達、グリフィス大学の先生、ホストファミリーなど、色々な人との出会いが自分にとってかけがえのない大切なものであるということも実感しました。この経験を通して、これからも継続的に英語は勉強していこうというモチベーションの向上にもつながりました。これからサマースクールや長期留学を考えている皆さんも、ぜひ海外に行った際には、何事にも積極的に挑戦し、多くのことを吸収してってください。

（茶谷 一誓）

私がこのサマースクールに参加したのは、とにかく英語の世界に浸かって英語のレベルを上げたい！という思いからでした。海外の経験は

ありましたが、5週間も海外で生活したのは初めてでした。不安も多くありましたが、周りの方々に支えられて研修を無事終えることができました。

オーストラリアに来て、毎日見るものすべてが新鮮でした。聞いたこともない変わった鳥の鳴き声で朝目覚めたり、坂が多い道路を徒歩で通学したり、バスや路面電車、何もかも日本と違ってとても楽しかったです。スクールアクティビティで参加したフレザー島旅行はとても良い思い出です。バスの中からDingoという動物を見たり、夜に海岸で満天の星空を眺めたりしました。南十字星や火星や土星を見ることができました。

滞在して1週間過ぎたころ、風邪をひいて熱を出してしまいました。朝晩寒く、乾燥していたため多くの人が体調を崩していました。学校の病院へ行って診察してもらい、薬を買いに病院まで歩きました。頭がぼんやりとしている中で英語を話したり聞き取ったりするのは非常に困難でしたが、自分の英語力を試す良い機会でした。海外の病院に行くという貴重な経験もできましたが、やはり体調管理には気を付けるべきでした。

ホストマザーが毎日作ってくれたご飯が美味しかったのが印象的です。土日も3食バランスの良い食事を作ってくださいました。私は、サンドウィッチが苦手な日本ではあまり食べないのですが、とても美味しいサンドウィッチを作っていただいたので、毎日楽しみでした。毎日、マザーと一緒に映画やニュースを見て会話したり、マザーから英語表現を教えてもらったり、家でも英語を学ぶことができました。難しい単語は分かりやすく言い換えてくれて、私の言っていることを理解しようとしてくださ



いました。最初はテレビの内容も、マザーが友人と会話している内容もよく分からなかったのですが、最後の方では分かるようになってきたのを実感しました。

GE4Cのクラスで、私は同い年の中国人の女の子と友達

になりました。日本のことが好きで、いろいろと興味深く聞いてくれました。お互いの国のことを説明したり、尋ねたりする中で英語の練習ができました。学校最終日、私は彼女とサーファーズパラダイスに行きました。一緒に写真を撮ったり、アイスクリームを食べたり、カフェに行ったり、おそろいのキーホルダーを買ったりしました。彼女との会話では、日本と中国の間の壁は一切感じられず、とても良い時間を過ごせました。彼女から、英語と日本語と中国語で書かれた手紙をもらいました。最後のお別れでは、「また会おう、お互いに英語の勉強を頑張ろう！」と約束しました。

私はこの留学で、伝わる話し方ができるようになることを目標にしていました。最初は発音も良くなくて、抑揚も上手くつけられませんでした。いつの間にか1回で相手に分かってもらえることが多くなりました。まだまだ語学力は足りませんが、もっともっと努力していきたいと思います。そしてこの留学で支えていただいた多くの方々に感謝し、この体験をこれからの大学生活に活かしていきたいと思っています。

（土屋 有希）



■ 僕がこのサマースクールで学んだ事はまず、リスニング力をのばす必要があると感じました。コミュニケーションをとる上で耳から情報を聞くことが難しく、マザーとの会話も、ゆっくり話してくれているのですが、何となく分かる程度で、まして一般の現地の人の話すスピードは早すぎて何にも分からなかった事もあった。全く、見当違いな回答をしたこともあった。聞き取れていればもっと話せたのと思うところがあるので、これからもっ



と勉強していきたい。

ホームステイ先は大変いい家庭だった。朝早く集合しなければならない時はもちろん送ってもらったし、毎晩、ファザーといっしょに映画を鑑賞したり、マザーが食事を準備しているときはいつも一緒に会話をした。

ルームメイトにも大変恵まれ、最初は台湾人の Celia と、最後の2週間くらいは中国人の Hank と過ごした。Celia は僕に学校の行き方やステイ先のルールとか家電の使い方などほとんどすべて教えてもらった。逆に Hank が来た時はそれを僕が教えた。英語で教えることはすごく難しいなと感じた。オリエンテーションのための最初の登校日、バスのタイムテーブルの関係で学校に遅れると Celia に言われた時は、びっくりした（普通に Celia が始発の朝早いバスに乗れないだけだった）。でも、遅れても問題ないと聞いたので僕も毎日遅れていった。Hank に教えたなら、彼は毎日始発に乗って行った。Hank はすごくまじめで優しい人だった。

クラスメイトともいっしょにランチに行ったり、すごく新鮮な感じがした。一生の友達ができてほんとに良かった。放課後も午前で授業が終わり、そこから遊園地、ショッピングモールや、プールに行ったりしてすごく充実していた。また、オーストラリアに絶対行く。

（日比野 隼大）

私は去年からこの留学プログラムの存在を知っていたものの、去年は行く決心ができずに終わってしまいました。しかし英語で生活することに対する好奇心を抑えられず、さらにもう3年生

なので、留学するなら今回がラストチャンスかもしれない、今回諦めたら絶対に後悔すると思い、今回のサマースクールに参加しました。

ホームステイは、初めは食習慣をはじめとする新しい環境に慣れるのに精一杯でしたが、ホストファミリーがとても良くして下さったおかげで、すぐに慣れて快適に過ごすことができるようになりました。休日には家族全員でピクニックをしたり、友達夫婦とその子供たちと一緒にビーチへ行ってバーベキューをしたりと、とても充実した日々を過ごしました。帰国直前には私のためにシーフードパーティーを開いてくれるなど、私のために色々なことをしてくれる素敵なファミリーでした。

家の近くにカフェやスーパーがあったため、それらを巡ることが放課後のささやかな楽しみでした。元々美味しい食べ物を探することが大好きだったので、時間を忘れて楽しみ、気付いたら暗くなり始めていて大急ぎで帰る、ということもよくありました。現地の美味しい食べ物をたくさん見つけられた上、単語も覚えられて一石二鳥でした。

授業では、グループでの話し合いの時間や休み時間などにお互いの国の言葉や文化を教え合うなどして、とても刺激的な毎日を過ごしました。私はそこで、看護学を学ぶために一度シンガポールで英語を勉強してから来た中国出身の学生や、一度別の大学を出てから二つ目の学位を取るためにグリフィス大学に来たベネズエラ出身の学生など、とても個性的で、けれども自分の夢に一生懸命近づこうとしている学生何人かと友達になることができました。彼らの話には、自分とは違う彼らの価値観が出ており、また彼らが彼ら自身の夢についてよく考えているとわかる、とても興味深いものでした。しかし、私が彼らの英語を聞き取れなかったり、彼らの考えに対する自分の考えを英語で上手く組み立てることができなかったりしたために話を発展させることがなかなかできず、もどかしく思うことが何度もありました。限られたトピックならある程度話せるようになったものの、自分の言いたいことを英語で何と表現したら良いのかわからず、笑って誤魔化してしまうことも多くありました。また、発音のせいで私の言いたいことを理解してもらえないことや、時には相手に誤解させてしまうこともありました。英語で人と交流して初めて見つけた自分自身の課題がたくさんありました。

留学を終えた今、参加して良かった、と自信を持って言うことができます。ただ楽しんだだけでなく、これからの自分に繋がるものを得ることができたかけがえのない最高の5週間でした。

（水谷 綾乃）

この留学をまとめると、長年の「海外に行きたい」という自分の夢を叶えると共に、自分の英語のレベルを測るいい機会でした。私は岐阜大学に入ってから、speakingだけを鍛えてきて、その力がどこまで通用するかを試してみたいと思っていました。

結果は、自分の言いたいことは言えて、相手の言っていることも、何となくは分かったのですが、一番感じたのは自分の表現の少なさです。私はありがとうと言う時に「thank you」しか知らなかったのので、「私はもっとあなたに感謝しているのだよ」と言いたいときに、ただただ「thank you」を連呼するだけでした。それが本当に悔しかったです。

また、自分は圧倒的に speaking 以外が弱い事を知りました。クラスでは文章を読むのが誰よりも遅くて、宿題を終わらせるのも一番遅かったです。

そして、この経験が新しい勉強の意欲になっています。この留学に参加して本当に良かったです。

（林 兼輔）

オーストラリアで一番困ったのが“食”についてなので、食についての体験談を書こうと思います。

まず、日本人が一番オーストラリアに行ったときに食べたいと感じる“米”についてですが、日本の米と違い、タイ米なので少し違和感があります。意外とタイ米が苦手な人が周りにいたので、お米が食べたいと思ったときは少し高いですがお寿司を買うといいと思います。また、お寿司ですが、たいてい売っているのは巻き寿司で、中にはアボカドが必ず入っていたのが印象的でした。

他にも、味がはっきりしているものが多いと感じました。私がそれを実感したのはスーパーのチョコマフィンでした。最初はほんのり甘かったのですがマフィンの中心に行けばいくほど砂糖の味しなくなるということがありました。

オーストラリアへ一緒に行った仲間たちの中でも一番深刻だったのは、ホームシックではなくフード

シックだったので、オーストラリアに行く時はインスタントの味噌汁などを持っていくといいと思いました。また、現地にも日本料理店がいくらかあるので、友達と一緒にたまに食べに行くのもいいと思います。

（佐藤 多恵）

この5週間はとても充実したもので、日本では経験できないような日々を過ごしました。もしこのサマースクールに参加していなかったら、今年の夏休みはこれほど充実したものにはならなかったと思います。

海外に行ったことはありますが、英語をこれほど使うのは初めての経験でした。語学学校にいる間の外国の友達と話すのには英語、家に帰ってからホストマザーや家族と話すのも英語、ラジオもテレビもすべて英語。こんな生活の中で感じたことは自分の英語はまだ未熟で何とか生きていける程度で、細かく表現することやきちんとした正しい表現で話すことはできないということでした。またテレビを見ていてもなにを言っているかわからないこともあり、英語を話せるようになるにはさらなる努力が必要だと思いました。しかし、通じないことがあっても話せたときは楽しく嬉しく、英語を学んでよかったと思いました。5週間英語漬けの日々を過ごし、多少は英語の表現を覚えてリスニング力も向上したので、日本に帰ってからも勉強を続けたいと思います。

このサマースクールを経験し、オーストラリアに行って一番よかったと思うことは、様々な人に出会えたことです。語学学校で出会った人の中には親が決めた、と言っている人もいましたが、一番仲良くなった日本人のひとは自分で決めてオーストラリアに来た、と言っていました。彼女たちの努力を見習いたいと思いましたし、いろいろ話したことで多くのことを学びました。

今回のサマースクールを通して、海外で学ぶことや海外に住んでみたい、働いてみたいという気持ちが強くなりました。このような考えが生まれたことなどもサマースクールがあつてのことなので、今回思ったこと、感動したことなど、今回の経験をこれからの生活に生かしていきたいと思います。

（今枝 磨耶）

日本から出たことのなかった自分にとって、留学は小さな夢でもありました。時間が経つにつれて、海外の人と日本人との価値観の違いを知りたい気持ちが次第に強くなり、とうとう今回のサマースクールへの参加に踏み切りました。

パスポートの準備や、海外保険、カード、携帯電話について全くわからないところから始まりましたが、家族や友人、先生方に助けられながら準備を進めることができました。ただ、スーツケースが家に届いたのが出発の前日だったので、それはもっと早く準備するべきだったと思います。

日本を飛び立ってから約5週間のサマースクールプログラムの間でも、気づいたことや感じたことがいくつかありました。

身近なところから挙げていけば、カードと現金の割合を6：4くらいにしておけばよかったこと、半ズボンは1つあれば十分だったこと、単語帳の他に文法の教材ももっていけばよかったこと、ホストファミリーや食事について詳しく聞いておけばよかったことなど、小さな後悔がいくつかありました。

それとは別に、授業中には、日本でなかなか見られないような積極性と、そこから生まれる雰囲気を目の当たりにしました。クラスの人数が少なかったからかもしれませんが、とても充実した時間だったと思います。

また、オーストラリアで生活し、現地の人々やクラスメートと関わっていくなかで、出身国に関わらず、その人の個性を見ることの大切さを改めて感じました。私は国同士の違いを探そうとするあまり、無意識のうちに話す前からイメージを作っていました。たしかに、国によって常識の違いや行動の傾向はありましたが、自分の偏見に彼らをあてはめることはやはり間違っていることを再認識させられました。

このサマースクールを通して最もよかったことは、帰国してから見つかりました。今まで受け流しか鵜呑みにするしかできなかった「海外では～」という情報に、ある程度自分の意見をもって立ち向かえるようになったことです。たしかに、まだ1か国しか訪れていませんが、誰かを仲介して得たものでなく、自分で発見し、経験したという事実が自分の中の情報や意見に対する最も大きな信頼となりました。

（堀 隆太郎）

今回の留学は自分の人生を改めて見直すきっかけになりました。オーストラリアは日本とは違うことばかりで、あらゆることが新鮮でした。オーストラリアの冬は日本ほど寒くなく、昼は半袖で過ごせるほどです。初週に気候の違いで体調を崩すことが多く、慣れることに苦労しました。また、紫外線が強く、朝歩いて大学に行くときなど眩しすぎて前を向いて歩くことができないほどでした。気候のほかに宗教、文化、人柄、国の規則など、日本では体験できないことを経験することができました。宗教はホストマザーがキリスト教徒だったこともあり、食膳の前の儀式や、教会に行くなど信仰する人の違いを知りました。

また日本では、現在お酒を一滴でも飲んだら車を運転してはいけない規則がありますが、オーストラリアでは1カップまでなら大丈夫という決まりがあります。聞いた時は驚きましたが、国によって法律が全然違うということを学びました。またオーストラリア人の人柄は非常に友好的であり、ジョークを言うのがとても好きです。最初は全く理解することができず、まともに受け止めてしまい酷いことを言われたのかなと思ってしまいましたが、後からオーストラリアの人に毎回ジョークだから気にしちゃだめだよと笑いながら言われました。みんな優しくて明るいと感じました。治安に関して、日本はかなり安全な国であることを再認識しました。オーストラリアでは夜の7時、8時以降に一人で外出することは非常に危険らしいです。店なども夕方に閉まってしまうところが多く、夜に出歩く必要もないため夜は人がいないです。何度か自分は危険な目にありました。若い男の人から空き缶を投げられたり、大麻持っていない？と聞かれたり日本ではありえないことなのでとても怖かったです。

勉強に関しては1か月と少しですが、本物の英語に常にふれあい毎日英語を話すことで自然に学ぶことができました。リスニング力とスピーキング力は行く前と比べて格段に上達したと思います。強制的に英語を使うことは、日本で英語を学ぶより数倍上達が早いと感じました。海外で英語を学ぶ上で気になったのが中国人との教育の差です。中国人は文法をほとんど理解しておらず、筆記に関しては日本人のほうができると感じました。しかしスピーキングに関しては非常に強く、単語を並べただけではあるもののスムーズに自然と口から出てきます。日本人

は文法を気にして話すことが難しくなっています。授業を受けているときに実感させられました。

オーストラリアは自然豊かでとても住みやすい国です。将来もう一度いけたらいいなと思っています。こういった経験を若いうちに体験することができ、留学費用を払ってくれた親にとっても感謝しています。これからの将来、この経験を踏まえいろいろなことに挑戦できたらいいなと思いました。

（犬塚 健太）

私はこのオーストラリアのサマースクールに参加し、とても自分のためになったと思う。私にとって海外に家族なしで行くことは初めてのことであった。英語は特に得意ではなく、不安要素ばかりであった。しかし、なんとかなるだろうという思いで日本を出発した。オーストラリアに到着してホームステイ先の方々が私たちを迎えにきてくれるとき、留学メンバーがどんどん減っていき、とても恐怖でいっぱいだった。そんなことを考えていると私の名前が呼ばれ、私のホストファミリーと初めて対面した。ホストファミリーはマザーもファザーも学校の先生をしていて、とてもまじめな人だった。リスニングが得意ではない私は、最初の1週間はマザーとファザーの言っていることが早すぎて聞き取ることができず、まともな会話ができなかった。初日には私に英語が伝わらなくて、ホストファミリーの学校で日本語を話せる先生を探し回るということもあった。

ホームステイ先には、私と同じようにホームステイしている台湾人とトルコ人がいた。どちらも私と同じGELI (Griffith English Language Institution)に通っていた。GELIとはグリフィス大学の留学生のための施設で英語を学ぶことができる。私はG3AというGELIの中では真ん中のクラスで授業をうけた。クラスには中国人、台湾人、サウジアラビア人、クウェート人とアジアの色々な国籍の人がたくさんいた。国によって英語になまりがあり、とても興味深かった。中国人の英語はとても聞き取りにくく、英語を喋っているのに中国語を喋っているのではないかと思うこともあった。そこで一番感じたことは、日本人の自己主張の弱さである。海外の人は自分の思ったことをすぐに発言し、納得するまでその意見を変えようとしなない。日本人は意見をまわりの人たちに合わせてしまうことがあり、積極的

に意見を発表することは少ない。だから、私たちははじめ授業に参加しているのではなく、見学しているような感じがした。2週間目からはそのようなことはなかったが、日本人の弱点がよくわかる体験だった。また、スピーキング力のなさも痛感した。多少聞き取れても、自分の思っていることが即座に英語で出てこず、話し相手を困らせてしまうこともあった。日本では文法の授業を中心的にやるが、いざ海外に行ったときに文法はそれほど役に立たないことがわかった。同時にスピーキングの練習をもっとするべきだと思った。

学校は平日の午前中だけなので、平日の午後と土日はフリーの時間だった。そのフリーの時間にはGELIで勉強したり、家でホストファミリーと会話をしたり、みんなで遊びに行ったりした。その中でも一番よかったものはフレーザー島である。フレーザー島とはオーストラリアの東海岸にある島自体が世界遺産の島である。島がすべて砂でできており、島の周りにはきれいな海岸が数キロ続いている。夜には日本では絶対に見ることのできない量の星を見ることができ、5分に1回のペースで流れ星が流れていた。地球の神秘さを体感できた。

この5週間で私は多くのことが変わった。まず、英語である。最終的にはホストファミリーとある話題について討論することができたし、自分の思っていることも文法を無視したら割とすらすらと出てくるようになった。次に世界観である。以前は日本国内のことしか興味がなかったが、今は海外のことについて、とても興味を持っている。また、私の将来にも影響を与えた。将来は海外で日本との懸け橋になれるような人になりたいと思えるようになった。

この5週間の素晴らしい体験は私1人でできたことではない。岐阜大学の留学関係の方々、家族、ホストファミリー、留学メンバーなどと多くの人々の支えがあったからこそできたことである。私は留学に関係したすべての人に感謝したいと思う。そして、この経験を私の将来に活かしていきたい。

（竹中 将貴）

今回の留学は、初めてで、海外に行くのも初めてだったので、緊張とわくわくの両方の気持ちでいっぱいでした。なぜ留学しようと思ったかというそれはとても単純で、外国人の友達を作りたいかったというのと英会話を少し上達させたかっ

たからです。このことに思い至ったのも、春休みに急に海外に行って、今のモチベーションを変えたいと思ったことから始まりました。だから、入念に留学の準備をしてきたわけではありませんでした。しかも、僕は、英語が得意というわけでもなく、リスニングも大の苦手だったので、正直オーストラリアに着いてから無事に暮らしていけるのかも不安に思っていました。しかし、行く前から不安になっても仕方がないので、簡単な日常英会話と語彙だけを覚えた状態でオーストラリアに向かいました。

オーストラリアに到着し、ブリスベン空港からグリフィス大学に向かい、ようやくホストファミリーと会いました。僕のホストファミリーは、フィリピン系の方たちで、割と日本のイントネーションに近い感じで英語を話してくれたので聞き取りやすかったです。ただ、フィリピン語もよく英会話の途中に話し出したりする時もあったので、英語の時のみ注意深く聞くようにしていました。何より自転車を貸してもらい、パーティーにも参加させてもらったので、とても貴重な機会に恵まれたことに感謝しています。

一方、英語のプログラムはと言いますと、主に英会話である一つのトピックに関してグループでディスカッションをすることが多かったのです。これにより頭の中で英作文するスピードが少し速くなった気がしました。また、英語の文法（Grammar）は、すべて英語で説明されていたので、とても新鮮な感覚で授業を受けていました。

授業後の空いている時間などは、友達とショッピングに出かけたり、テーマパークに行ったり、アクティビティに参加したりして楽しみました。中でも、フレーザー島という島全体が世界遺産に認定されているところにアクティビティとして行くことができたので良かったです。海がきれいで、土が白くて柔らかく、熱帯雨林が数多くあり、まさに自然の宝庫のような感じでした。

このオーストラリアの留学に来てから、色々な文化を知り、様々な国の人々と話すことができました。英語は上達した感覚はあまりありませんが、自分の中の意識は変化した気がします。初めての海外でも十分充実した五週間を過ごすことができ、新たな仲間もでき、満足のいく留学でした。

最後に、二、三週間過ぎるとだいたいやることなくなくなってきて暇を持て余すかもしれません。その

時は、大学内の図書館や別の講義棟などに行って過ごすとも別の楽しみができ、他の国の人と交流ができたりもします。別の講義を受ける場合は、必ず許可をもらってから参加することをお勧めします。また、友達とテーマパークに出かけたり、動物園などに行くのもとても楽しいと思います。まとめると、何かしたいことを考えながら動かないと時間だけがなくなっていくので、その時その時の時間を大切にすることがベストかなと思いました。

（酒井 道隆）

私がサマースクールに参加した目的は、Speaking, Listening 力の向上、オーストラリアでの生活を体験すること、そして人見知りを克服し、協調性を身に付けることでした。私は小学4年生から英語を学んできましたが、中々それを活かす機会に恵まれず、もどかしく思っていました。そこで、その知識をどれだけ活かせるかを測るには、実際に英語圏であるオーストラリアへ行って試すのが最適だと思い、このサマースクールに参加しました。

学校では、中国やロシア、クウェートなど様々な国籍の人々と共に英語の授業を受けました。そこで一番印象に残ったことは、日本人はReadingとWritingは比較的得意ですが、Speakingはあまり得意ではありませんが、それに対して、日本人以外の留学生はその逆であるということです。これは教育の仕方の違いによるものだと思います。また、日本人と比べて外国人は自分の考えをしっかりと持っているから自信をもって話せるのだとも思いました。初めは間違いを恐れて授業で消極的でしたが、このままでは何も変わらないと思い、恥ずかしがらずに発言するよう心掛けました。僕は外国人と話したかったので、できるだけ日本人と席が隣にならないように毎日席を変えました。授業では、アボリジニの文化についても学び、グループで話し合い、プレゼンテーションを行いました。少し緊張しましたが、堂々とやり遂げることができました。

ペアワークやグループワークを通じて、クラスに馴染んでいくとともに友達ことができました。その中でもとても優しい中国人の親友がいました。中国人は大体反日感情を抱いているのだろうと偏見を持っていたのですが、それは大間違いだということが分かりました。というのは、彼は日本のアニメや新幹線

など日本の色々な事物が好きで、強い関心を示していたからです。また、彼はショッピングに連れて行ってくれたり、食べ物をご馳走してくれたり、帰国する日を伝えると、見送りに来てくれました。彼と別れるときには思わず感動してしまいました。彼は僕の最高の親友です。

授業後や休日には時間があつたので、友達と有名なテーマパークやショッピングセンターに出かけたり、大学のアクティビティに積極的に参加したりとできるだけ英語に触れ合う時間を増やしました。岐大生4人でシドニー小旅行を計画し、オペラハウスやハーバーブリッジを観光しました。日帰り、短い時間でしたが、シドニーを満喫することができました。また、カンガルーの肉やラミントンというチョコケーキ、フィッシュ&チップスなどを食べに行ったりして、オーストラリアの食事を堪能しました。

ホームステイでは、9月1日に春が始まることや早寝早起きをして規則正しい生活を送っていることなど、日本と異なる点を知ることができました。また、水不足のため入浴時間や洗濯の回数が決まっていたことから日本がいかに水に恵まれており、無駄遣いをしているのかを痛感するとともに反省しました。大学生の息子が出演していた劇に連れて行ってもらった時には、話すスピードが早すぎて全然聞き取れなかったので、Listeningはまだまだ未熟だと感じました。

留学してから2週間くらい経ったとき、まだ3週間もあると安心していましたが、帰国する時にはもう終わってしまった、5週間って短いなと思いました。これは、毎日が充実していたからです。ホームシックに陥り、早く日本に帰りたいと思うこともありましたが、自分に負けず、それも貴重な経験だと思ひなして、オーストラリアでの生活を楽しみました。

このサマースクールを通じて、人見知りを克服し、協調性を身に付けることができました。また、語学力向上の鍵は伝えたいと思う気持ちと間違いを恐れず積極的に話すことだと実感しました。そして、次は長期留学に挑戦したいという新たな目標を掲げることもできました。

最後に、このサマースクールに携わってくださった方々に感謝します。皆様のおかげで最高の5週間となりました。ありがとうございました。

（米田 朴利）

私は前々から漠然と海外に行って英語を学びたいと思っていました。私はこのサマースクールの期間が長い点、広々とした良い環境で学べる点が理由で参加することを決めました。私はこれが初めての海外だったのでやはりたくさん不安がありましたが、いざ行ってみるとそんな不安はすぐになくなりました。ホストファミリーも大学関係の方もみんな優しく対応してくれたので安心して、過ごすことができました。

私は、サマースクールの目的は語学勉強だけでなく、異文化に触れることも含まれていると思っています。毎日の授業の中で英語に囲まれて学び、十分に語学勉強ができたと思っています。ホストファミリーの生活はもちろん、家の建て方や道路の形、店の雰囲気など日常生活のすべてに日本と異なる部分がみえて、戸惑うことがたくさんありました。同時にその文化に慣れていくことがとても楽しかったのを覚えています。

オーストラリアでの日々はあっという間に過ぎて行きました。それを振り返ると、本当にかけがえない貴重な日々だったと感じます。弱音を吐きそうなきも少しはありましたが、サマースクールを通して、自分の中の何かが成長した気がします。

（宮内 香名）

今回この貴重な夏休みを留学にあててよかったと感じています。やはり、海外でしか経験できないことはあると思います。食文化の違い、信仰の違い、考え方・発想の違いなど異文化を知ることができました。これらを体験できたのはGELIに通っていたということが一つあると思います。GELIには、様々な国の学生がいました。私のクラ



スでは中国人が大半でしたが、相手の国の文化を初めて知ることが多々ありました。また、かけがえない友人もたくさん作ることができました。彼らの多くは、日本のことを愛していました。改めて自分も愛国心を再確認できました。また、ホストファミリーには感謝という言葉以外になにもありません。crazyと感じたことは多々ありましたが、5週間楽しくホームステイできました。

今、日本に帰ってきて、残りの学生生活を有意義に過ごせるかは、この経験を活かしかれるかにかかっていると思っています。今回のサマースクールで関わってくれた迫さん、太田先生、生協の方々、両親、そして現地で関わってくれた方々、本当にありがとうございました。

（井上 嵩史）

 サマースクールの5週間、私はさまざまな体験をしてそのなかで多くの人に出会いました。特に英語に自信のなかった私ですが、海外に行ってみたい！行けば何とかなるだろう！という気持ちで参加しました。行きは同じ大学のグループで行動していたためそれ程不安は感じていませんでしたが、実際、飛行機のアナウンスは全く聞き取れていませんでした。

それでも、オーストラリアは私を歓迎してくれました。

まず初めに、行きの飛行機でバカンス帰りのオーストラリアのご婦人と席が隣になりました。彼女はとても気さくで私に声をかけてくれました。彼女はいくつか話を振ってくれましたが、私はろくな返事

もできず、結局、高校生と間違われたまま会話は終わってしまいました。もっと話したくても言葉が出てこない、他の方法もない、という場면을初めて経験し、自分の英語の弱さをとても悔しく思いました。

次に、経由地のシンガポール空港で助けてくれたおじさんに、私はthank you. しか言えませんでした。親切に答えることができないことが残念で、私は英語を知識としてだけではなく使えるようになりたい、と強く思いました。

ホストファミリーはとても明るい家族で、笑顔で私を迎えてくれました。はじめは英語がほとんど聞き取れず、私は適当に相槌を打っていました。でも、それでは意味がないし逆に迷惑をかけることになると感じ、聞き直すと、マザーたちは何度も繰り返し言ってくれました。ファミリーの子供たちはとても元気で、すぐに私を受け入れてくれました。スケートボードや追いかけっこをして遊び、その中で英語の言い回しなどを教えてもらいました。

言葉が不自由な場所で、私は人とのつながりの大切さを改めて知りました。小旅行に行った先で体調を崩したとき、友達が支えてくれ、道に迷ったとき、尋ねると親切な人が助けてくれました。人と人を繋ぐのは言葉だと実感しました。

最初は異世界の言葉に聞こえた英語が、時々はある言葉に聞こえるようになりました。帰りの飛行機のアナウンスが少し聞き取れました。今回、オーストラリアに行って、もっといろんな人と自由に会話したいと強く思いました。もっと、勉強してまた行きたいと思います。

（内田 景子）

**平成26年度 JASSO（財団法人 日本学生支援機構）
海外留学支援制度（短期派遣）奨学金受給者修了報告書（抜粋）**

○報告者 Y.A.
学習成果について
5週間のみであった為、格段に英語が上達することはなかった。しかし、英語で行われる英語の授業では、高等学校で学んだ事よりも詳しく学ぶことができた。また、スピーキングに関しては、他国の学生より劣っていると感じたが、文法に関しては、他国の学生より上回っており、自信を得ることができた。留学前は英語を使用する際、自信の無さなどから、ためらいなどがあったが、今回の留学で文法は間違っているも堂々と英語を話す他国の学生の姿を見て、自分も堂々と英語を話すことができるようになった。また、聞き取りに関しても留学前よりも格段に聞き取れるようになった。
海外での経験について
この5週間で文化の違いや食生活の違い、気候の違いなど多くのことを実際に経験することができた。中でも、先生と下の名前呼び合うことや、店員との気さくな会話など大きな文化の違いを感じた。また、日本ではさほど大切に扱っていない水も、現地ではとても高価で貴重なものであったため、日ごろの水の扱い方を考えるきっかけとなった。日本とは、真逆の季節も、冬であっても比較的暖かいこと、紫外線がとても強いことなども、実際に経験してみることで、他国と日本との違いや理解に繋がったと思う。
派遣プログラムの内容について
内容としては、充実したものとなった。ホームステイをしたことで、現地の人と同様の生活を実際にすることができ、とても良い経験となった。また、通った学校も、他国の留学生のクラスメイト、日本からの長期の留学生がいて、とても刺激的な環境で学ぶことができた。自由な時間が比較的多く、自主学習にあてたり、町に出かけてみたり、他国出身のクラスメイトと食事をしたり、勉強のみではなく、様々な経験をすることができた。また、5週間という期間が、長すぎず、短すぎず、自分にとって適当な期間であった。
今後の進路への影響について
将来的に長期の留学をしてみたいと思っていた私にとって、今回の留学はその気持ちを確認する良い機会となった。実際に海外で生活してみて自分の気持ちがどう変化するかを知ることができた。今回の留学で、実際留学するところのようになるという具体的なイメージをつかむことができた。そして自分は海外留学ができるという自信を持つことができた。現時点で大学3年生ということもあって、大学からの交換留学は少し厳しいと思うが、将来的には、長期の留学をしてみたいと思う。
その他
以前から英語を話せるようになりたいと思っていたが、今回の留学を機により強く思うようになった。英語学習に対するモチベーションが高まったので、この気持ちを忘れずに英語学習を進めていこうと思う。

○報告者 K.A.
学習成果について
スピーキング、リスニング、ライティング、リーディング、全てにおいて成長することができました。ホストファミリーがずっと一緒に過ごしてくれたので、英語に触れる時間が長く、恵まれた環境でたくさん会話することができました。いろいろな人に自分から話しかけるようにし、間違いを気にせず自分の気持ちを伝えられるようになりました。ホストファザーが先生になってくれて、宿題を見てくれるだけでなく、一緒にニュースを見て世界の色々なことを教えてくれたり、間違った表現を言えるまで直してくれるので、どんどん楽しく会話ができるようになりました。また、自信もつきました。学校ではわからないことを先生に質問すると丁寧に教えてくれたり、スピーキングが得意なクラスメイトが助けてくれて、積極的に授業に参加できました。ライティングとリーディングの宿題が多く、もともと得意な分野でしたがさらに力を伸ばすことができました。ライティングは先生の添削のおかげで、正しい表現を覚えることができ、最後にはお世話になった方々に自分で手紙を書けるようになり、感謝の気持ちを伝えることができました。リーディングは初めて英語の小説を読むことができ、物語を楽しみながら新しい単語や文法を覚えることができました。オーストラリアでできた友達にたくさん刺激を受け、将来やりたいことについてもじっくり考えることができました。
海外での経験について
初めての海外だったので、目に映る全てのものが新鮮で、経験したことのないことにたくさん挑戦できました。日本では恥ずかしくてできなかったり、人に任せたりしてしまいがちでしたが、他人にどう思われるかを気にせず自分の意見を言ったり、何にでも積極的に動くことができました。自分で調べたり、人に聞くことができるようになりました。ホストファミリーやクラスメイトに色々なところに連れて行ってもらって、貴重な体験がたくさんできました。日本に比べて大きな家や、水や物価の高さ、食事や気候の違いなど、毎日が驚きの連続でした。オーストラリアの人の気さくさや、きれいな自然に直接触れることができ、テレビや本ではわからなかったことを知ることができました。オーストラリアのことを知ると同時に、日本のことをもっと調べたいと思うようになりました。また、日本の良さに改めて気づくことができ、日本のことを海外の人たちに伝えたいと思いました。
派遣プログラムの内容について
私にとって、ホームステイが一番貴重な体験になりました。その国の家庭を知ることができ、本当の家族のように良くして頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。家族と過ごすことで英語がたくさん話せます。家族に自分の気持ちを伝えるために、もっと英語が話せるようになりたいと思って勉強を頑張りました。また、語学学校に通って、素晴らしい先生とクラスメイトと出会えたことです。お互いの将来の夢の話をしたり、様々な国の違う歳の人たちと交流ができ、もっとここで皆と勉強したいと思いました。ずっと憧れていた留学でしたが、なかなか最後の一步が踏み出せず迷っていた時にこのサマースクールのことを知り、ホームステイと語学学校に5週間も通えるというところに惹かれて参加を決めました。どちらも素晴らしい経験になり本当に参加して良かったです。金銭的にも奨学金の補助のおかげで、海外で思い切り好きな勉強をすることができました。一生の財産になる貴重な体験になりました。
今後の進路への影響について
反省をして次の日に改善をするということ、小さい目標をたくさん作って一つ一つ達成すること、自分が将来やりたいことを毎日考えながら過ごしました。それをホストファミリーや周りの人たちと話すことで、より自分の気持ちが明確になり、外に発信することで絶対にやり遂げるという強い意志をもつことができました。わたしは生命化学を勉強していて、研究者になりたいという夢を持っていましたが、特にガンなどの病気について研究し、新しい治療法や薬を見つけて、病気で苦しむ患者さんを救いたいという新たな目標ができました。それをホストファミリーが応援してくれて、皆ができないと言っても私を信じて味方でいてくれること、諦めずにいれば必ず叶うこと、人を幸せにするためにはずっと笑顔でいること、という大切なことを教えてくれました。このことを忘れずに夢を叶えるために勉強を頑張っていきたいと思います。
その他
今回の留学は私を大きく変えました。精神面でも学習面でもたくさん成長できました。自分で何とかする力、自信ができました。今ならどんなことにも挑戦できる気がします。そして親切な方ばかりで本当に幸せでした。オーストラリアが大好きです。こんな貴重な経験ができたのは、日本の家族、友達、大学で支援してくれた方々、ホストファミリー、先生、クラスメイト達のおかげです。協力してくださった方々、オーストラリアで会った全ての人に感謝の気持ちを伝えたいです。

○報告者 M.I.
学習成果について
語学学校に通うことで文法はもちろんのこと、授業中にたくさん話すので、会話力も上達しました。しかしながら、すぐに言いたい単語やフレーズが出てこないこと、また、短いフレーズや文法のきちんとしていない文章しか作ることができないことを実感し、今後の課題が見つかりました。授業中に行うリスニング、学校のパソコンで各自で行う教材やホームステイ先での会話、テレビによってリスニング力を向上させました。時々聞き取れないこともあります。オーストラリアに着いたばかりの頃より格段に聞き取れるようにはなりました。ホストファミリーに5歳の子供がいたのでアニメをよく見ていましたが、最初の頃よりとても聞き取れるようになり、見ていて楽しくなりました。
海外での経験について
クラスメイト、ホストファミリーとの出会いによって様々な刺激を受けました。同じ年で大学の代わりにグリフィス大学の語学学校に入学し、将来グリフィス大学に入る学生と仲良くなり、新しい考えを受けました。また、他にも皆努力していて、私も頑張らなければいけないと思いました。日本を出なければ分らないようなこと、例えば自国から出て勉強するという経験をしている人の考えや今後の目標を聞いたことが、今後の自分の進みたい道をさらに広くしてくれました。
派遣プログラムの内容について
語学学校のプログラムや、学校を通して観光できるのが良かったです。また、ホームステイというのも魅力のひとつでした。語学学校は先生と学生が近くにいる、とても和やかな雰囲気の中で行っていました。またこの学校は学生向けにアクティビティを格安で行っていて、その行事には何度か参加しましたが、とても良いものでした。ホームステイはほんとうの外国の人々の生活が垣間見れたので、日本とは違った新たな発見もありました。
今後の進路への影響について
海外旅行が増えるだろうし、一年間の留学への道の夢も強くなりました。そしてもっと英語の勉強が必要であると気づかされました。小さいころから留学を夢見ていたのですが、今回のサマースクールを通して様々な人と出会い、これからの人生はまだまだ変えられるんだと悟ったり、一年間の留学をさらに熱望するようになりました。留学することで自分を変えたいと思います。今回のサマースクールを通して自分の英語力の向上が必要だと痛感しました。英語の勉強をして留学をし、英語を完璧に話せるようになりたいと思いました。
その他
今回の経験を通して様々な体験をして、日本の中では考えられないような考えがたくさん生まれました。グリフィス大学で出会った友達と話していて思ったことは、日本から出ないということはなんでもったいないことなんだ、ということでした。日本から出ると考え方がまるで違います。しかし、日本の良さも見えてきます。日本人のしっかりしたところ、日本の文化の素晴らしさが見えてきます。その一方で、ゆっくりとした空気感、日本では考えられない常識が存在します。これを知るのは本当に良かったです。日本に籠っているのもいいかもしれないですが、改めて日本の良さがわかりました。留学の醍醐味はここにも存在するのではないかと今回の経験を通して感じました。

○報告者 M.S.
学習成果について
今回の留学では、主に Listening の能力と Speaking の能力が向上したと思われます。なぜなら、何を尋ねるにしろ、英語で聞き英語で受け答えをしなければなりません。ホストファミリーと一緒に雑談するときでも英語で話さなければなりません。そのような追い込まれた環境の中で、いつも自然に英語が思いつき簡単に会話が成立していたわけではありません。必死に、自分の頭の中で自分の言いたいことをまとめて英訳するという作業を反復して毎日過ごした結果、自分の中では、以前の自分よりも英会話のスキルが上がったのではないかと思ったのです。
海外での経験について
オーストラリアでは、バスに乗っている際、次の停留所を教えてくれないので、外の景色を見て降りたい場所の近くで自分で降車のボタンを押します。または、自分で運転手さんに尋ねなければなりません。これがまず日本と違い驚いた出来事の一つでした。初めは、自分の家の近くにバスが止まるか不安だったので、バスに乗る前に必ず運転手に尋ねるようにしていました。その結果、道には一度も迷わず留学を終えることができましたし、道の尋ね方も覚えることができました。また、ショッピングに行った際にも、2 for 30ドルなどと書かれているものは、二つ買って30ドル払えばよいといった値札のことなど、スーパーにある英語のラベルの意味も理解できるようになりました。
派遣プログラムの内容について
英語のプログラムは、Speaking や Listening がメインで、グループディスカッションをしていたので自分の欠点を補うのに良い授業でした。僕が受けていた授業には中国人やアラブ人、ロシア人がいました。それぞれが独特のイントネーションで英語を発するので、最初は全然聞き取れませんでした。ですが、毎日一緒に授業を受けているうちに少しずつ慣れてきて、英会話ができるようになりました。このようにして外国の人と話すことで交流することができ、同時に自分の Speaking や Listening も上達することができました。
今後の進路への影響について
TOEIC や TOEFL など就職に役立つと思われるので、そういった試験のスコアを上げるため英語の勉強を継続していきます。まだまだ自分の英語は未熟なので、もう少し磨きをかけてから海外も視野にいた仕事も考えていきたいです。もし、海外で働くとしたら、今回の留学以上の英会話の能力が必要とされます。一方で、ほかの国の人々との交流の輪も今以上に広がり、そこで新たな発見があるかもしれません。まだまだ、自分の専門分野を英語で読み書きする能力がないので、そのあたりも力をかけていきたいです。
その他
留学は自分の中の意識（モチベーション）を変える良い機会になりました。なぜなら、日本とはまるで違う景色、日本以外の国籍の人など数多くのものがすべて初めて見るものばかりだったからです。僕は、今回留学という目的で、人生で初めて海外に行きました。そして、色々な国の人々と会話することで自分の視野も広くなり、より大きな見方で物事をとらえるようになりました。本当に、この留学は、自分の中でプラスになることが多くあり、自分のこれからの成長の糧としていきたいです。

○報告者 A.M.
学習成果について
ナチュラルスピードの英語を聴き取ることは簡単ではありませんでしたが、プログラムの最終週には、ホストファミリーの親子間で交わされる会話が半分程度理解できるようになりました。また、通学路の看板や近所のスーパーの品物から多くの単語を学び、瞬時に理解できる語彙が増加しました。また、毎日授業で学習したことは授業時間中に理解するよう努めることに加え、授業後に自習を行うことにより、プログラムの途中に行われた Speaking, writing, listening, reading の計 4 分野について総合的な学習成果を測る大きなテストでは、3つの分野で最高評価を頂きました。
海外での経験について
目に入るものが全て英語である上、機械の使い方なども日本とは違ったため、どうしたらよいか分からず困ったことが何度もありました。しかし、Yes, No, 分からないといった意思表示さえ明確にすれば、現地の方々はとても親切に助けてくれました。また、現地人とだけでなく、特に授業では中国、韓国、ベネズエラ、クウェートなど様々な国から来た学生達と交流することができました。彼らは彼らの国の、あるいは彼ら自身の独自の価値観を持っており、時には自分や日本との違いに驚くこともありました。それを通して相手を理解できたことも多く、貴重な経験になりました。また、たとえ理解するのが難しくても、まずは受け入れようと試みるのが大切だと実感しました。
派遣プログラムの内容について
グループディスカッションの多い授業で、英語を使って相手の意見を正しく理解することや自分の意見を正しく伝える方法を学びました。時に小説を使って、内容を正しく理解したり、その情報から推測する訓練も同時に行いました。また、週末には200語程度の文書を作成する課題をこなし、ネイティブスピーカーの先生に添削して頂きました。午前中に4時間授業を受け、午後は自由、という今回のプログラムは、勉学により語学力を向上させる時間と、課外活動によりオーストラリア独自のものを学ぶ時間のバランスが取れた、個人の裁量次第で各自の目的を達成するのに適した内容でした。
今後の進路への影響について
英語の文章を読むことに抵抗がなくなり、留学前よりも幅広い情報をより速やかに得られるようになったことが、大学を卒業後、大学院へ進学し研究を続ける上で大いに役に立つと思います。また、今回のプログラムを通して様々な価値観の人々に出会い交流できたことで、人を受け入れ理解する能力を高めることができました。今後どのような進路を選ぶとしても、今回のプログラムで培ったこの能力はプラスに働くと確信しています。
その他
一ヶ月程度の短期留学でしたが、確実に自分にとって大きくプラスになるものを得た留学でした。しかし、一ヶ月で自分が身に付けることができるものは限られているということを強く感じました。したがって、次に留学するときは、より長期の留学をしたいと考えています。但し、今度留学をするときには語学の向上を重視した留学ではなく、日本で予め英語圏の授業についていけるだけの語学力をつけた上で、自分の専門分野についての知識・技術を海外から得て、日本や世界に役立てるための留学をするつもりです。

○報告者 M.N.
学習成果について 私はこの留学でたくさんのことを学びました。まず、英語の語学力は留学前に比べて上達したと思います。ホストファミリーや外国の友達と会話することや、毎日の英語による英語の授業によって、speaking や listening の力が大きく伸びたように感じます。はじめは、聞き取れなかった英語が聞き取れるようになったり、思っていることが伝えられたりしたときの喜びや、逆に何を意味しているのか分からなかったり、伝えたいことが伝わらなかった時の悔しさは、さらに上達したいと思わせてくれました。また、積極性も身に付き、興味を感じることはまずトライしてみることが大事だと知り、何にでも自分から行動できるようになりました。
海外での経験について 私にとって、この留学は飛行機に乗るところから全てが初めてのものでした。当然、海外に行くのも初めてで、目や耳に飛び込んでくるもの、体で感じるものの全てが新鮮で刺激的なものでした。外国人講師による英語での英語の授業やホストファミリー、友達との会話は、私の語学力を成長させてくれました。友達と、いくつかのテーマパークや動物園、ショッピングに行ったり、きれいなビーチで遊ぶことは日常で、休日には、ブリスベン観光や世界遺産に登録されている島への旅行、スキューバダイビングなど、日本では出来ない経験がいくつもできました。
派遣プログラムの内容について 今回のプログラムでは、大学の語学学校に通えたことがとてもよかったと感じています。学校に行くことで、たくさんの友達が出来、素晴らしい先生と出会えました。授業で徹底的に英語の speaking や pronounce を学べたことは、すごく自分のためになり、授業を通して英語に対する興味がでてきました。また、午後はフリータイムだったので、友達と遊びに行ったりスクールアクティビティーに参加したりと、興味のあることは大抵行うことが出来ました。ただ、5週間という期間はとても短く、もう少し長い期間で留学したかったというのが、正直なところです。
今後の進路への影響について 私は看護学科に所属しており、進路についてはたいてい決まっていますので、留学前は今回が留学のラストチャンスだと思っていましたし、進路に対しても大きな影響はないと思っていました。でも、留学によって、いろいろな考え方やものの見方を知り、今までの視野の狭さに気付かされました。それは、今後の進路というより人生に対して大きな影響があると思います。
その他 今回の留学で、たくさんの経験をし、たくさんのかげがえのない人たちに会えました。自分自身も大きく成長できたのではないかと思います。日本の良いところ、悪いところもみえてきました。もっと留学していたかったというのが正直な感想です。たくさんの人に支えられたと感じており、学んできたこと、経験したことを生かしていくことで恩返しが出来たらいいなと感じています。また、ぜひ海外に行きたいです。

○報告者 K.K.
学習成果について
基本的には授業中に文法，スピーキング，リスニングの勉強をした。当然これらの授業はすべて英語で行うため，習ったことをすぐ実践し，身につけることができたため，非常に質の高い時間を過ごせ，とても満足している。また，ライティングの課題を先生に添削してもらうことで，文法，時制のミスのほか，よりよい表現や言い回しについてすぐに学べたため，より柔軟な英語，より使える英語の習得に役立った。それに加え，ほぼ毎日リーディングの課題をこなし，また自主勉強をすることで，インプット，アウトプットの学習を両立することができた。また，これらは今後の実践的な英語，使える英語の学習の指針となる経験となった。
海外での経験について
当然であるが生活のなかに英語があふれており，英語を現地で勉強したいと思っていた私にとって，それは夢のような時間だった。現地の人と英語でコミュニケーションをとることは簡単ではなかったが，少しずつ話せるようになり，少しずつ聞き取れるようになっていくことに喜びを感じた。また，間違いを恐れず，積極的に英語を発信することや，母国語を使えないような環境を自分でつくることが，語学力の向上を促進すると感じた。わからないことをそのままにせずに質問したり，新しく学んだことはメモをとることを常に意識していた。また，そうした中で現地の文化に触れ，さまざまな人々から情報や意見をもらうことで，身をもって自国との違いや長所を感じることができた。
派遣プログラムの内容について
平日は午前中の授業，週末は休みという日程だったが，現地の大学に行き，様々な国の人と出会えたことは，貴重な体験だった。また，大学による留学生のサポートもしっかりと行われており，相談の対応も迅速であったため，何不自由なく学校生活を送ることができ，とても満足している。さらに，大学から留学生向けにアクティビティを提供しており，それに参加することで異国の学生と交流したり，現地の環境に慣れることができた。また，ホームステイ先との契約で一日三食は保障されていたため，食事面で困ることは一切なかった。
今後の進路への影響について
オーストラリアでは，車をはじめとして，たくさんの日本製品が見られた。日本製への信頼と人気を見てとれ，私自身それを誇りに感じた。将来は，そんな日本の製品の開発に従事し，よりクオリティの高い商品の生産に貢献したい。また，海外の国々との連携が重要になってきている今日において，英語を使う場が確実に増えてきている。そんなグローバルな場で円滑にコミュニケーションを図るためにも，今回の経験を活かして英語の勉強にはよりいっそう力をいれていくつもりだ。
その他
ホームステイ先のファミリーやその親族と同じ時間を過ごし，一人の人間としての温かみを感じた。私がホームステイ先を自分の家であると感じられるように，常に気を配っていただいた。彼らのおかげで，本当にオーストラリアという国が好きになれたし，また，彼らのような人間味のある大人になりたいと思えた。また，コミュニケーションとそれを行うための言語の必要性を感じ，それに加え，人間力の大切さを実感した。

○報告者 M.T.
学習成果について
一番進歩したことはリスニングだと思う。オーストラリアでの第1週目はホストファミリーの言うことすら聞き取れなかったが、4週目からは普通に会話ができるようになった。学校でもクラスメイトと英語でコミュニケーションがとれるようになり、とても世界が広がった。また、スピーキングも自分の言いたいことがすらすらと英語で言えるようになった。私が一番の成果だと思うことは、「もっと英語を学びたい」「もっと英語を話せるようになりたい」と思えたことである。まだ、海外で生活するにはボキャブラリーや表現力が乏しいので、次に海外に行く時までその部分を向上させたいと思う。
海外での経験について
すべて英語での買い物、公共交通機関の利用は私にとって初めてのことであり、とても良い経験となった。オーストラリアにはいろいろな国籍の人が住んでいるため、日本とは違った文化を学ぶことができた。また、レディーファーストについて学ぶことができた。何事にも女性を優先、これは日本人には抜けていることであり、私も大切にしていきたいと思った。また、運転のマナーに驚いた。日本人は車優先の感じがあるが、オーストラリアでは歩行者優先だった。横断歩道で立っていた時にすぐに車が止まった時は、日本とは違いすぎて戸惑ってしまった。
派遣プログラムの内容について
学校の授業は、もちろんすべて英語であり、英語で文法の説明を受けたのはとても新鮮だった。日本語とは違った角度からの視点があり、深く学ぶことができた。また、クラスメイトには中国人やサウジアラビア人などアジアの国が多く、そういった人たちの英語の特徴について知ることができた。ホームステイではホストファミリーとの会話により英語力を向上させることができた。友達の家でのバーベキューに招待してもらったという初めての経験をすることができた。たくさんの家に行ったが、どの家の人とても良い人ばかりだった。オーストラリア人の人のよさを知ることができた。
今後の進路への影響について
私にとって初めてのことであり、私の今後に大きな影響を与えたと思う。以前は地元でのんびりと働きたいと思っていたが、今は海外で働きたいと思っている。海外に拠点を置き日本との懸け橋になりたいと思う。日本にとどまらず、もっとグローバルな人間になりたい。また、言語も英語だけにとどまらず、中国語やスペイン語なども話せるようになりたい。今は英語がしっかりと聞けるようになり、すらすらと話せるようになるために努力していきたいと思う。そして、再び海外に行き、英語でコミュニケーションをとりたい。
その他
一緒に行った留学生メンバーの中で、食事面で困惑している人がいたのでホームステイの契約についてもっと明確にしてほしい。

○報告者 Y.T.
学習成果について
グリフィス大学で英語を学んだことで、得たことが3つあります。1つ目は、「英語を英語で学ぶことでより理解が深まる」ということです。授業では未来形の使い方やifとin caseの違いなど、多くの日本人があまりよく違いを理解しないままに使っている英語を解説してもらえました。英語で説明してもらおうと、その言葉や文法をどんな場面で使うのがよりイメージしやすくなって、留学前よりも理解が深まりました。2つ目は「相手に伝わる話し方」です。クラスメイトやホストファミリーに話すとき、英語の抑揚やアクセントを意識しないと伝わりにくいことが分かりました。自分は何を伝えたいのか、を考えながら話すことで言いたいことを分かってもらえるようになりました。これは日本では学べないことだし、留学で多国籍の人と話す中で身につけられたものだと思います。3つ目は「間違いを恐れない」ということです。日本ではいかに正確に文法や語彙を使えるかが重視されています。これは間違いではないし、正確な英語を使えるに越したことはありません。しかし、国際的な場面で通用するためには、何度も何度も英語を使い、練習することです。そしてその過程で失敗は多くあります。でも、それを恐れるのではなく、失敗から学ぶことが英語上達の近道だと先生がおっしゃっていました。
海外での経験について
海外で1か月生活するという経験は初めてで、最初は不安でした。でも、ホストファミリーの方がとても温かく、快適に留学生活を送れました。滞在中に1度だけ熱を出してしまいましたが、何とか対処することができました。毎日規則正しい生活をし、英語のシャワーをあびれたのが良かったです。グリフィス大学で私のクラスは日本人が少なく、サウジアラビアやベトナム、クウェート、中国と様々な国の友人ができました。なかでも、中国人の同じ年の女性と仲良くなり、お互いの国のことを教え合ったり、話し合いました。こういった友人との会話でも英語の練習ができたし、お互いを知ろうとすることができたのが良かったです。彼女は、オーストラリアで1番の友人です。そして、オーストラリアに来て感じたのは、自然が豊かだということです。飛んでいる鳥も日本とは全く違うし、カンガルーやコアラ、タスマニアデビルなど固有種がいっぱいいて、見るものすべてが驚きでした。特に、オーストラリアの人々がコアラの保護に力を入れているのが現地のニュースから伝わってきました。カンガルーやコアラに触れる機会があり、非常に貴重な経験ができました。
派遣プログラムの内容について
5週間のプログラムは非常に良かったと思います。なぜならば、月末に行われるグループワークのプレゼン発表、スピーキング、ライティング、リーディング、リスニングのテスト、そして通常授業を経験できたからです。グループワークでは英語でプレゼン発表をする練習をし、とてもためになりました。将来、英語でのプレゼンの場にいかせそうです。また、岐阜大学生で行ったプリズベンの観光も良かったです。クーサ山での眺めがとても感動しました。もっと長く滞在していたかったのですが、集中的に英語を学べたので良かったです。
今後の進路への影響について
今回の留学を通して、将来は国際的な場で活躍する人になりたいと思いました。5週間英語を使って生活して、やはり自分は英語が好きだと実感しました。工学部に在籍していますが、国際的な場面で活躍する技術者になれるよう、これからも努力していきたいです。また、今回の留学で、英語以外の言語にも興味を持ちました。例えば、中国語やドイツ語です。私にとって、言語を学ぶことは世界の文化を知り、より多くの人と話すためのチャンスを作ってくれるものです。ですから、他の言語も身につけられたらいいなと思いました。
その他
今回の留学では家族、友人、ホストファミリーやグリフィス大学の先生方など非常に多くの方にお世話になりました。また、JASSOの奨学金を支給していただき、のびのびと学ぶことができました。みなさんに支えていただいたおかげで、5週間の留学を無事に終えることができ、有意義なものになりました。このような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

○報告者 H.H.
学習成果について
英語の授業が日本とは全然違いすべて英語で行われるので、リスニング、スピーキング能力が伸びました。初めはホストファミリーが何を言っているのかわからなかったけれど、最後の週は初めより会話できるようになっていました。しかしまだリスニングにおいて力が及んでない事を痛感したので、今後まずはリスニングをのばしていきたいと思います。なぜなら、相手の言っている事が理解できないと自分が喋ろうと思っても何について話しているのか分からず、話す事ができないからです。
海外での経験について
景色が日本とは違っていました。現地の人と会話するのが新鮮でした。現地の方は話すスピードが早くよく理解するのに時間がかかりました。海外で長期滞在すると言う事はどのようなことなのか少し分かった気がしました。特にオーストラリアでは色々な国々から来た人が多く、今回20人のサマースクール参加者の中でもイギリス、ドイツ、イタリア、フィリピン、ギリシャ、エジプトなどのホストファミリーと過ごしたと聞いて、20人の中でさえこんなに様々な国の人がいるのならばオーストラリア全体でもかなりの移民の人がいるのだと思い感心しました。
派遣プログラムの内容について
文法の授業が簡単すぎると感じました。しかしスピーキングのレベルは適切でした。海外で生活するということはどういうことかを経験するのには良いプログラムだと思います。英語で英語を学ぶ授業は日本で学ぶものとは全く違い、“コレ”を続ければ絶対英語が伸びるなと思いました。例えば、わからない単語に対して英語で質問し英語でその意味を聞くという経験は、日本でなかなかできないことだと思います。先生の英語を一生懸命聞いて授業に参加するため全く退屈せず、毎日の授業が楽しかったです。
今後の進路への影響について
英語を使って世界中で仕事がしたいと思いました。オーストラリアに住みたいとも思いました。そのためにまず私はリスニング力を上げていこうと思いました。なぜなら今回のサマースクールで一番リスニング能力が欠如していると感じたからです。もっと相手の言っていることが分かれば話すことがもっと多くなったと思う。また、ヴォキャブラリーがあまりにも少ないと感じました。普通の生活においては問題を感じなかったが、ある程度の高度な話題について話し合う時、自分の言いたいことが言えない事が悔しかったです。
その他
オーストラリアに帰りたいたいと思えるホームステイファミリーに出会えました。人というのはこんなにも温かいものなのだと実感しました。

○報告者 R.H.
学習成果について
ホストファミリーや友人、現地で出会った方々との会話を通して、特にリスニングとスピーキングが上達しました。特にスピーキングは日本で使用することは稀なため、今回の短期留学により、とても有意義な練習ができました。オーストラリアの普段の生活のなかでマナーとして必要となる英語や買い物などでよく使う英語、そして使えると便利な英語などを中心に習得しました。この5週間の留学のなかで好きな英語も見つけました。Nice to see you. (会えてよかった)。ある時、初対面の人と語り合ったことがあった。そして最後に言われたこの言葉にとっても感動したことを覚えています。最終日、ホストファミリーと別れる時も最後はこの言葉でした。
海外での経験について
水不足のオーストラリアでは、飲料水の値段が日本の2倍であり、その貴重さを強く感じました。これだけでなく、金額からの判断であるが、物や資源に対する価値観の違いがいくつかみられました。また、食生活や人間関係の違いを知りました。食生活では、甘いものがなかなか口に合いませんでした。しかし、全般的に料理は日本人にとって苦にならないものでした。また、人間関係においては、日本よりも友人を家に招き入れたり、知らない相手にも積極的に話しかけていく傾向があり、それをためらうことの多かった自分としては見習いたいと思いました。
派遣プログラムの内容について
プレイスメントテストの英語のレベルでクラス分けされた後、私のクラスでは、環境問題をテーマにした話やアボリジニーの文化にふれながら過去形・過去進行形・現在進行形・過去完了形の正しい使い方を学びなおしました。授業のなかでは、クラスメイト同士でテーマについて話し合う機会が多く設けられました。また、後半の方の授業では日常会話でよく使う英語の聞き取りや正しい発音のやり方を中心に練習しました。9月の始めころ、クラス変えのテストが行われたが、私たちのクラス移動は成績に関係なく行われませんでした。
今後の進路への影響について
クラスメイトやホストファミリーをはじめ、英語を通して様々な国の人々とつながることができ、そこに喜びを感じました。そのつながりの中には国と国との文化や価値観の違いがあり、それもまた興味深いものでした。今、自分の学んでいる工学においても、そういった違いを結びつけることで新たな発見があるという可能性を強く感じました。今回の留学で得た英語学習の成果を最大限に活かし、今後は英語が使える工業地域への留学を積極的に考え、自分の視野を広げたいと考えています。そしてひとつの価値観にとらわれない技術者になりたい。
その他
環境が違えば、そこに生まれる生態系も変わってきます。私は家の周りを飛び回る小鳥にさえ興味を抱いていました。幼い子供のような好奇心が蘇ったようでした。そんな自分を支え、優しく見守ってくれたホストファミリーや先生方、この留学の機会を与えてくれた方々に、心から感謝したい。

○報告者 K.I.
学習成果について
留学する前、自己紹介すらままならず英語が話せないという大きな不安を持った状態のままオーストラリアに行きました。ホストマザーに会った時話したくても話せないという辛い経験をしました。そういうことを経験したことで、留学中英語を勉強しなければいけないと一層強く思いました。そこでホストマザーに日記を書くといいといわれたこともあり、毎日英語で日記を書くことにしました。わからない表現はとことん調べ、それを増やしていく。毎日継続して行うことで日に日に多くの内容を短時間で書くことができました。さらに、グリフィス大学での授業によって基礎から英語を学ぶことができました。授業は全て英語で行われるためリスニング力がつき、他国の留学生と話すことでスピーキング力も上がりました。38日間過ぎし終えた今、海外の人に対する抵抗力がなくなり多くの人と英語で話したいと思うようになりました。今回の経験は正しかったと自信をもって言うことができます。
海外での経験について
海外での経験は言語だけでなく、宗教、文化、人柄、国のルールなど日本と違った多くのことを体験しました。自分のホストマザーがキリスト教徒だったこともあり、食事の前の儀式や教会に行ったりなど普段体験できないようなことをしました。また夜に怖い思いもしました。夜の帰り道で若い2人の男の人に空き缶を投げられたりしたことで、日本の治安の良さを改めて感じました。日本では夜の8時は何も思わないが、海外ではその時間に外を歩くのは危なすぎると言われた時は驚きました。お酒に関しても飲める年齢が違ったり、一杯なら飲んだ後でも車を運転することができるなど国によって考え方が違うことを知りました。また、オーストラリアの人々はジョークが好きです。最初は理解できず、まともに受けとめてしまい、酷いこと言われているのかなと思ってしまったが、後からオーストラリアの人に毎回ジョークだからねと笑顔で言われました。みんな優しくて明るいと感じました。
派遣プログラムの内容について
派遣プログラムの内容はとても良かったと思いました。まず5週間という長さが自分にとっては丁度よく有意義な時間を過ごすことができました。オーストラリアでの活動で困ることはほとんどなく、あらかじめ手続きをしてくださっていたことで多くのことをスムーズにこなすことができました。さらに事前研修を実施してくれたことによって留学に行く前にあらかじめ心の準備をすることができ、また一緒に行くメンバーと知り合うことができたため少しの余裕を持つことができました。休みの日でのブリズベン観光は送迎バスでたくさんの観光地を巡ることができ、1日で非常に充実することができました。少し情報が少ないと感じた時もありましたがこれも留学経験の一つだと思い自分の力で解決することによって自信もつきました。派遣プログラムで不満なことはありません。本当にこのプログラムに関わってくださった方々に感謝しています。
今後の進路への影響について
最初に思うことは海外の人々に関わる仕事に就きたいということです。英語を利用した職に就きたい、海外で働きたいと考えるようになりました。今まで日本にいたことで日本人の考え方ができなかったです。留学したことで日本人と違うことを多く体験し、いろんな角度から考えることができるようになりました。これは日本にいたら経験できないことです。もっといろんな国の人と話して多くのことを吸収したいと感じました。そのためには大学の生活をいかに大切に過ごすか、どれだけ努力できるかだと思いました。将来を見据えると同時に、今やるべきことをやらなければ後悔すると思います。せっかくの経験が無駄にしないように日常的に英語に接し、留学後も今の気持ちを忘れないように過ごそうと思います。1年生のうちに海外経験をすることができ本当に良かったと思いました。
その他
もう少しホームステイ先や大学の情報を知りたかったです。あと留学前のテストでもっといい結果を出して現地で上のクラスで勉強したかったです。留学前の準備も重要だったと今更ながら感じました。

○報告者 I.T.
学習成果について
英語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの四技能について幅広く学ぶことができた。また、私としては実際に英会話をする実用的な手段としてのスピーキング、リスニングをしっかり学べたことは非常によかった。ネイティブの会話も少しは聞き取れるようになったと感じた。また、リーディングについても、短時間で大まかな内容を理解する速読を実践してみたり、ライティングは実際に英作して、ネイティブの先生に文法や表現の使い方などを細かく見てもらって、どこが間違っているのかなどもしっかりと理解することができた。また、それだけではなく、実際に話題について対一や多くの人と話すことにより、他国の人とのコミュニケーション力も身に付いた。
海外での経験について
最初はホストファミリーのことについても詳しいことは分からず、バスの乗り方も分からなかったり、地理も分からなくて不安だったが、徐々にそれらのことを自分なりに学んだり、現地の人に聞くことによって、海外での生活の仕方や、現地の人とのコミュニケーションの取り方なども学ぶことができた。また、中国人の友達や、アラブ系の友達もできたので、自分の異文化に対する理解の仕方を顧みることができ、海外の様々な場所に行くことで、自分の知見や感情を豊かにすることができたと思う。やはり、日本の大学とは違って、オーストラリアならではの雰囲気や、学び方、学ぶ時間帯の違いなどについても認識することができた。
派遣プログラムの内容について
平日は午前中はずっと授業で、英語の様々なことについて学ぶことができた。英語の勉強だけではなく、他大学や海外の大学の友達もでき、非常に充実していた。午後からは自由な時間だったので、自分なりにその日の計画を立てて、いろんな場所に行ったり、買い物に行ったりもすることができた。路面電車やバスなどを使って出かけたり、他国の友達と買い物しに行ったりと、様々なことを経験することができた。また、休日の一日丸々使って、大学のプログラムの一環として、ブリスベンに観光に行けたのもよかった。ブリスベンには都会であり、様々なショップなども並んでいたのも、買い物をしたり、博物館に行ったり、サメの標本や恐竜の化石などもみることができたので、非常に充実した時間を過ごすことができた。
今後の進路への影響について
グローバルな社会人になりたいと実感できるプログラムであった。海外の人たちと触れ合うことによって、これからももっと英語をしっかりと使えるようになっていきたいと感じた。英語をこれからも継続的に勉強して、海外出張や、海外での就職にも積極的に挑戦していきたいと感じた。仮に大学院に行くことになれば、国際学会などで英語を使う場面もあるようなので、そのような場面でも今回の経験を活かしていきたいと思った。また、長期留学なども学部生の間か、大学院に入ってからに一度挑戦してみたいと思った。日本にいる外国人についても、知り合いや友達を増やしていきたいと考えている。
その他
今回のプログラムでは、英語をしっかりと学ぶことだけではなく、他の国の人々の考え方や、他国の人どのようにコミュニケーションを取るか、そして、海外での生活をするための知恵などについても学ぶことができた。英語については、やはり日常会話ができるようになるためには、スピーキングとリスニングの基礎がしっかりとできている必要があると感じたので、これからは洋画や洋楽なども聞いたりして、それら二つもしっかりと鍛えていきたいと感じた。また、読書なども通じて、速読の力もつけていきたいと思った。

ソウル科学技術大学

●韓国 ソウル科学技術大学参加者名簿（合計3名）

日程：2014年8月2日（土）～ 8月16日（土） 2週間プログラム

	氏 名	学 部	学年
1	土 井 智 文	教育学研究科	M2
2	渡 辺 弥 央	地域科学部	3
3	毛 受 美 穂	地域科学部	2



始まったのは4日からです。

月日	session 1			session 2
	08 : 30—12 : 30			14 : 00—17 : 00
8 / 4 (月)	opening ceremony	orientation	welcome lunch	韓国映画観賞
8 / 5 (火)	韓国語 1			K-Pop ダンス
8 / 6 (水)	韓国語 2			韓国伝統音楽
8 / 7 (木)	韓国語 3			サムルノリ (打楽器) 体験
8 / 8 (金)	韓国語 4			お面作り
8 / 9 (土)	フリー (フィールドワーク)			
8 / 10 (日)				
8 / 11 (月)	韓国語 5			テコンドー
8 / 12 (火)	韓国語 6			韓服体験
8 / 13 (水)	韓国語 7			NANTA show
8 / 14 (木)	韓国語 8			東大門 DDP 見学
8 / 15 (金)	修了式	お別れ会	フリー	
8 / 16 (土)	帰 国			

語の授業を履修しておらず、全くの初心者であったため、初歩的なレベルからの授業は非常に分かりやすかったです。既に母国で韓国語を勉強してきている学生は若干物足りなさを感じているようでしたが、韓国の先生が韓国語と英語のみを用いて授業を行ったり、授業の中でグループワーク等を通して他の国の学生と交流したりすることは、どの学生にとっても興味深く、貴重な機会となりました。

授業は基本的には先生が用意したテキストに沿って進められ、板書を用いた文法の解説や問題演習もありましたが、グループワークとしてビンゴゲームや神経衰弱などのカードゲームを行うこともありました。

また、外国語で自分の伝えたい事を言葉にする難しさを実感しました。

(土井 智文)



授業中の様子

 課外活動（session 2）

〈韓国映画〉

吹き替えも字幕もない、純粹に韓国語のみの韓国映画を視聴しました。韓国語が全く分からない状態で映画を観て、内容を理解できるのかどうか不安がありました。映画を観る前に登場人物や大まかなあらすじの説明があり、また視聴中にも適宜先生が解説をしてくれたため、どうにか理解することができました。

2011年に韓国で公開された「SUNNY」という映画を観ました。青春感動ものかと思いきや、クスッと笑われる場面も多く、まさに笑いあり、涙ありの素晴らしい作品でした。また学生デモなど、韓国の歴史的背景も描写されており、映画を通して韓国の文化に触れることも出来たように思います。



映画「SUNNY」を見る学生たち

〈伝統楽器の体験（サムルノリ）〉

韓国の伝統楽器(ばちを使って、太鼓を奏でるチャングやブク、銅でできているシンバルのようなケナリなど)を用いたサルノリの演奏をはじめに聞かせてもらいました。演奏してくれたのはソウル科学技術大学の、伝統音楽サークルの学生のみなさんでした。その後、私達も実際に楽器を演奏させてもらいました。英語で一生懸命に説明してくれたり、実際に手本を見せてくれたりと丁寧に教えてくれたのが印象的でした。最後に学生全員で演奏をしたのはとても楽しく、他の国の学生たちと言葉で通じ合えなくても、音楽で通じ合えた気がしました。



伝統音楽サークルの学生の皆さんの演奏



ケンガリの演奏方法を教えてもらう

〈韓国音楽〉

この授業では韓国の伝統的な音楽や童謡、また K-POPなどを聞いたり歌ったりしました。Head shoulders knees and toesの韓国語バージョンを歌ったり、ユネスコ無形文化遺産として指定されて



韓国音楽に合わせて踊る学生たち

いる“アリラン”などの有名な曲も歌ったりしました。ただ音楽を聞くだけではなく、映像を見ながら歌ったり、体を動かしながら歌うものもあり、楽しみながら授業に臨むことができました。

この時間で学んだ曲を、授業が終わった後でもカラオケで歌ったり、韓国人の学生チューターと一緒に歌ったりすることが出来たのは、とても楽しい思い出となりました。

〈韓服体験〉

韓国の伝統衣装である韓服の着用体験をしました。赤、ピンク、黄色、青、緑…と多くの色があり、学生たちはそれぞれ気に入った一着を選び、スタッフに着せてもらいました。写真撮影のために畳や韓国の伝統的な建物が用意されており、それらを背景に他の国の学生と多くの写真を撮りました。王さまの衣装や、王妃様の衣装などまるで韓国時代劇の一場面のようなものでした。韓服は本当に色鮮やかできれいでした。



色鮮やかな韓服を着てパチリ

〈お面作り〉

韓国の、タルというお面作りの体験をしました。まっ白な紙素材のお面に自由に色を塗ることができ、自分だけのお面を作ることができました。お面は、アジョシ（おじさん）、アジュンマ（おばさん）、ナムジャ（男の人）、ヨジャ（女の人）の4つの形から選びました。絵具は、赤、青、緑、黄、白、黒の6色を使いました。ポイントで金色も使うことができました。それぞれの学生が様々な色の絵具を組み合わせ、個性豊かなお面を作っていました。



作ったお面と一緒に写真を撮りました

〈テコンドー〉

韓国の国技であるテコンドーを授業で体験しました。ソウル科学技術大学のテコンドーサークルに所属する学生の方に、本格的に教えていただきました。初めての体験でしたが、日本でいう柔道などの武道と通じる点が多くありました。

最初と最後のあいさつから、ストレッチ、基本的な型、蹴り方などを教えてもらいました。みんな一生懸命で、順番に基本の蹴り方を練習している時も、上手に出来た学生には拍手が起こったりと、とてもよい雰囲気で行われました。

最後には、希望した学生同士で試合が行われました。日本の学生は観賞しているだけでしたが、イギリスの学生と台湾の学生との試合など、言葉も文化も違う国の学生が互いに真剣に勝負をしている様子はとても刺激的でした。次に参加される皆さんは、ぜひ試合に挑戦してみてください。



基本的な型から教えてもらいました

〈NANTA〉

NANTA とは、舞台上でコック達がフライパン、鍋、包丁などの調理器具を楽器として使い、軽快なリズムに合わせて演奏したり、ダンスを踊ったりする公演です。世界的に有名で、海外でのツアー公演も行っているそうです。

劇中では、お客さんが舞台上に呼び出されて参加できる場面があったり、爆笑と拍手が起こるほどのパフォーマンスがあったりと、とても楽しい公演でした。演奏も本当に素晴らしいもので、息つく暇もないくらい充実していました。何と言っても、言葉が理解できなくても世界中のだれもが楽しめるというのが魅力でした。韓国へ行ったら是非見に行っていきたいです。



観賞後、劇場内での集合写真

〈韓国ダンス〉

BIG BANG の“FANTASTIC BABY”の曲に合わせてダンスを教えてもらいました。

教えてくれたのはソウル科学技術大学のダンスサークルの学生でした。始めにお手本を見せてもらった時には到底踊れる気がしませんでした。出来ていない部分を何度も踊り直すなど、とても丁寧に教えてもらい、短い時間でも少しずつ上達することができました。個人的には、これまで K-POP にはあまり興味がなかったのですが、この曲を聞いて K-POP の良さを知りました。他の国の学生と同じ動きをしたり、同じ事で笑い合ったりするのは、言葉や文化を越えて、心が通じ合うようでした。

（土井 智文）



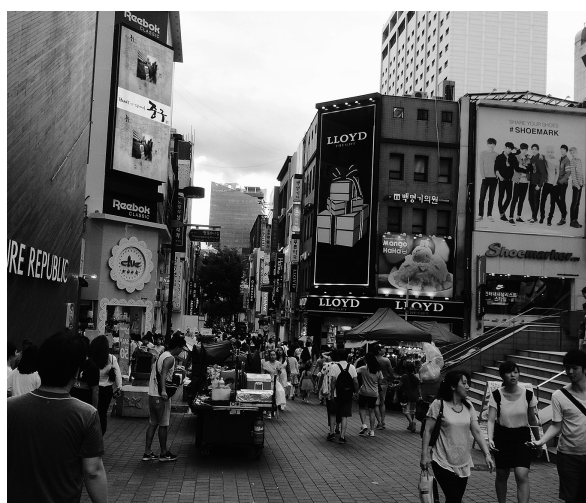
各グループのダンス発表会

放課後

放課後はほとんど毎日、街に出かけました。授業が終わると、同じ国同士や仲良くなったクラスの友だちなどで行くところを決めて、ボランティアの方々がついてきてくれることもあれば、STISS 参加者だけで行動することもありました。ボランティアの方々には、STISS 参加者だけで観光をしているときでも、SNS を使って、「どこにいるの?」「何をしているの?」と常に気にかけてくれました。

〈明洞・弘大・梨大〉

明洞（ミョンドン）はソウルの中心街で、明洞に行けばなんでも揃うというくらいに店も人も多い所です。観光客が多いので、ほとんどの店のスタッフが日本語で接客をしていました。ですから韓国語の



明洞には多くのショップが並ぶ

わからない人でも気軽にショッピングを楽しめると
思います。

弘大（ホンデ）や梨大（イデ）は、近くに大学があるので、『学生の街』という感じで、明洞よりも人通りは落ち着いていましたが、明洞と同じくらい多くの店が集まっていました。

〈南山タワー（ソウルタワー）〉

南山タワー（ナムサントワー）は、南山の頂上にそびえ立つソウルのランドマークです。観光客の集まる観光地でもあります。地元カップルのデートコースとしても有名で、どのベンチを見てもカップルだらけでした。また、そんなカップルたちの願掛けとして、南山タワーのフェンスには多くの南京錠がかけられています。南山タワーまではバスやケーブルカーで移動ができます。

(渡辺 弥央)



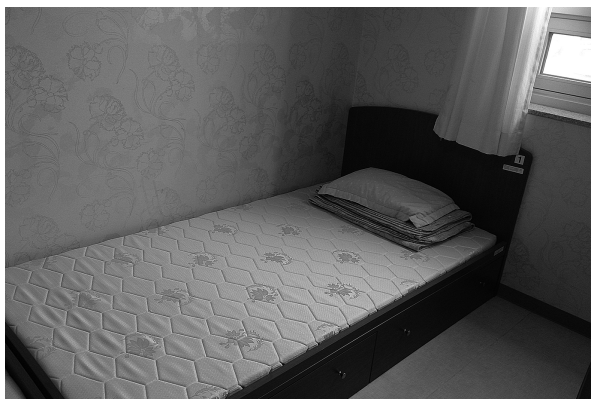
展望台からはソウルの町を一望できる

[illegible]

〈寮の設備や暮らしについて〉

滞在期間は大学内の寮で過ごしました。寮は男子寮と女子寮に分かれています。渡辺さん・毛受は同室で、土井さんはモンゴルから来た参加者と同室でした。

部屋は暗証番号を打ち込んで開けるオートロックのタイプでした。部屋の中の設備としては、シャワートイレ、エアコン、ベッド、勉強机、棚、下駄箱等が揃っていました。PCは、ケーブルと合わせて日本から持ち込めば、部屋でインターネットも使えます。Wi-Fiも使用できましたが、寮の中ではつながりにくい時もありました。ポータブルのWi-Fi端末



を日本でレンタルして持っていくと便利だと思います。

廊下にはTVとソファ、ウォーターサーバーが設置してありました。ここで水筒やペットボトルに水を入れることができ、また1階には缶ジュースの自販機と電子レンジもあったので、飲み水には困りませんでした。

〈寮内での食事について〉

食事は、朝・昼・夜と無料で食堂を利用すること



寮の食事。辛いメニューが多い。

普通に食べていたので驚きました。

〈食事の様式・作法について〉

韓国では箸とスプーンを主に使っていました。箸とスプーンは金属製で重く、平らなかたちでした。また日本のように横向きに置くのではなく、縦向きに置いていました。コップも同様に金属製でした。ご飯も金属製で蓋付きの器に入っていました。ご飯

感

英語の教師を目指す私がこのサマースクールに参加した動機は、韓国語の習得よりもむしろ、英語のスキルアップと、他国の学生との交流にありました。それは先輩方の事前の情報から、「韓国語よりも英語を使う機会の方が多い」と聞いていたからです。実際に行ってみるとその情報は正しく、韓国の学生だけではなく、中国や台湾など近隣諸国の学生、モンゴル、ロシア、UAE、コロンビアなど、滅多に交流することのできない遠方の国々の学生、更には英語を母国語とするアメリカやUKなどの学生などとコミュニケーションを図ることができ、英語無しには会話が成り立たない状況でした。必然的に英語を使わなくてはならなかったため、2週間という短い期間の中でも、特にスピーキングの力が高まったように感じました。

しかし、渡航前に英語にはある程度自信があったものの、実際に他国の学生と会話をする中では、自分の語学力の低さを痛感するばかりでした。英語がすぐに出てこずに沈黙してしまったり、話しかけられたことが聞き取れずに何度も聞き返してしまったりする場面も多く、挫折感を感じました。しかしそれと同時に、もっと「話せるようになりたい、聞きとれるようになりたい」と、学習意欲も2週間を通して湧いてきました。

また他国の人とコミュニケーションを図る上で、必ずしも語学ばかりが大切ではないということも実感しました。もちろん、語学ができれば話の内容も膨らみ、お互いのこともより詳しく知りあうことが出来ると思います。しかし、英語がそれほど出来ない学生が、間違いを恐れずに積極的に話しかけ、ジェスチャー等を使って何とか伝えようと努力する姿や明るく関わろうとする姿から、「英語が出来るか出来ないか」以前に、「関わろうとするかしないか」

は白米ではなく、雑穀米が多かったです。

日本からの参加者と、韓国のお寿司屋さんに行きました。お店の雰囲気やお寿司自体は日本とほとんど同じで、とても懐かしく感じました。ただ、お味噌汁が湯のみにいれて出されていたり、サラダやキムチがついてきたりしたのは新鮮で、韓国風になっているな、と感じました。

(毛受 美穗)

想

がとても重要であると気づかされました。「積極性」という言葉にしてしまえば簡単に聞こえますが、とにかくコミュニケーションを図り、何とか伝えようとする意志を自分も大切にしたいと感じましたし、教師になった時には自分の生徒にもそのように伝えたいと思いました。

ソウル科学技術大学のサマースクールでは、語学学習だけではなく、文化の学習も組み込まれていました。課外授業では韓国のような文化に触れ、多面的に韓国について学ぶことができたように思います。また他国の学生と話す中でも、それぞれの国の



文化や考え方を知ることが出来ました。UAEの学生とは、食事や結婚のシステムの違いについて話したことが印象に残っています。陽気なコロンビアの学生とは、韓国語を学ぶ意味など真面目な話をしたことも自分の刺激になりました。日本とは全く異なる文化や思考に触れ、驚かされる場面も多く、彼らと話した内容の一つ一つが自分にとって強い刺激となりました。また逆に、日本について尋ねられた時に答えられないことも多く、日本の伝統や文化について自分が知識を持っていないことに改めて気付かされました。日本に居れば当たり前に見えることも、海外では珍しく思えます。その違いについて、正しく情報を発信できるよう、日本についてもっと知る必要があるし、伝えられるだけの英語力を習得する必要があると実感しました。

このような貴重な体験をするきっかけを与えて下さった留学生センターの太田先生や留学生支援室の方々、ソウル科学技術大学のみなさんに感謝するとともに、このプログラムに参加出来た事を誇りに思い、志を高く持って勉学に励みたいと思います。

（土井 智文）

私は、K-popが好きで、第二外国語は朝鮮・韓国語を習っていました。韓国語をもっと学びたい、大学生のうちに海外に行って、自分の知らない世界をみてみたい、という想いでSTISSのサマースクールに応募しました。プログラム期間中はたくさんの貴重な体験をすることができ、またたくさんの出会いがありました。

実際にサマースクールに参加して、英語でうまくコミュニケーションができない、食べ物があわない…など予想していた以上に苦労しました。しかし、韓国での生活は、1つ1つのことすべてが自分にとって新鮮で面白かったです。このプログラムにはアメリカ、イギリス、ロシア、ドバイ、中国、台湾、モンゴル、コロンビアと多くの国からの参加者がいました。今でも連絡をとりあうことができる友達ができたことは、とてもうれしい。このつながりを続けていけたらと思います。

英語も韓国語も上手く話せなかったり、積極的になれなかったことは悔しいですが、一生懸命伝えようとするのが一番大切だと感じました。もっと日本について詳しくなりたい、人と語れるような内容を自分も持ちたい、日本でもたくさんの人と出会い、

関わるようにしたいと思いました。得るものが多い充実した2週間でした。出発前、プログラム期間中、支えてくださった多くの方に心から感謝しています。

（毛受 美穂）

今回このソウル科学技術大学のサマースクールに参加して、ただ旅行で韓国に行くのでは絶対に経験できない貴重な時間を過ごすことが出来ました。

私がこのサマースクールで一番痛感したことは、英語の重要性でした。韓国に行くからにはもっと韓国語を勉強したかったけれど、STISSのメンバーでの公用語は英語で、初めは本当に苦労しました。どの国の参加者もほとんどの人が英語を話すことが出来て、一番英語が苦手だったのがおそらく日本人でした。私は全く英語が話せないわけではないけれど、もうずいぶんと英語に触れていなかったし、文法も発音も正しいか不安で、語彙力もない…。でも、悩むより先にやってみることが大切なのだとことを知りました。引っ込み思案にならずに、まずは話しかけてみる。完全には聞き取れなくても、聞こうとして、わからなかったら聞き返すこと。その英語が正しいかは置いておいて、自分の気持ちを単語ででもいいから伝えようとする。そういった姿勢をちゃんと見せることで、相手も伝えようとしてくれるし、私の拙い英語をわかろうとしてくれました。他国の参加者と仲良くなれるかどうかは私の不安要素の中でも大部分を占めていましたが、努力のかがいがあったか、イギリスや台湾の学生とは、最終日のお別れ会で余興をしようと夜な夜な部屋に集まって練習をするくらいに仲良くなれたし、ロシアの女子学生とも、一緒に買い物に出かけたり、寮のロビーで、二人で話をするくらい、親しい友達になりました。今でもSTISSの友だちとはSNSを使って頻繁に連絡を取っています。英語が話せることは確かに重要ですが、「私は話せない・できない」で終わってしまうよりも、「やってみよう!」とすることが何より大切だということを実感しました。

学校の韓国語の授業の内容はとても易しいものだったが、先生に少し韓国語の勉強をしている旨を伝え、別の教材を準備してもらうことが出来ました。課外授業では、テコンドーをしたり、K-popのカバーダンスをしたり、韓服を着たり、NANTA

ショーを見たりと、伝統的な韓国から現代の韓国まで、さまざまな韓国の文化に触れる機会を与えていただき、より一層韓国のことが好きになったし、韓国に対する関心も強まりました。

約2週間というとても短い時間ではありましたが、その期間以上に濃い体験をすることが出来、また、素敵な友だちを日本にも韓国にも、その他の国にもつくることが出来ました。こんなに素晴らしい経験をする機会を与えてくださった留学生センターの太田先生、支援室の迫さんをはじめ、参加を後押ししてくれた友人や、一緒に参加した2人、STISSのボランティアスタッフの方々、STISS参加者のみんな…、今回のこのサマースクールを通して私に関わってくれた全ての人に感謝をしています。せっかくの経験が無駄にしないよう、ここで感じたすべてを、自分のこれからの人生に活かしていきたいと思っています。

（渡辺 弥央）



短期留学（サマースクール）参加者アンケート

グリフィス大学

【アンケート回答率】 85% 回答者数：17人（参加者数20人）

1. 先方の大学での研修について

a. 履修した授業の内容（科目、授業の概要等）とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。

Speaking 4.6点

ペアの人との会話、発言、プレゼン（オーストラリアの危険生物について、アボリジニの文化について）、自己紹介、ディスカッション

Listening 4.4点

教科書のCD、ビデオ、1～2分程度のストーリーを聞いて設問に答える。

Writing 4.6点

レポート、宿題、友達、日本、家族、自分のこと、将来、好きな映画について、日記、説明文、メールの書き方、いろいろなテーマあり、実際に書いて先生に添削してもらう。

Reading 4.0点

プリント、課題の本、宿題、特集記事や本を読み、設問に答える。

Grammar 3.3点

現在完了、過去進行形、未来形

b. 参加したアクティビティの内容とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。

サッカー 3.9点

フレーザー島旅行 4.9点

世界遺産のフレーザー島へ行く1泊2日の旅、きれいな海とたくさんの熱帯雨林を見て回る。

Q1スカイポイント（高層ビル）見学 4.7点
最も高いQ1という建物へ行き、ゴールドコーストを眺める。

ロビーナタウン 4.0点

ボーリングとレーザーシューティング 3.9点
ボーリングと2チームに分かれてシューティングゲーム（大型ショッピングセンターにて）

ブリスベン観光 4.0点

博物館, Mt.Coot-tha, 買い物

オーストラリア Food 試食会 5.0点

c. 先方の受け入れ体制について

①生活面で世話をしてくれた人は誰ですか？どんなことをしてくれましたか？何か問題はありましたか？

○カイリー

- ・わからないことを聞きに行ったらていねいに教えてくれたり、アクティビティの紹介などしてくれて楽しく話せました。
- ・学校生活やアクティビティについて、ていねいに説明してくれた。とても優しく、親しみやすかった。

○ホストファミリー

- ・家事。(問題は)特になし、強いて言えばヘビースモーカー。
- ・料理を作ってくれたり、洗濯してくれたりした。
- ・オーストラリアで必要な知識を丁寧に教えてくれた。
- ・食事、洗濯、話し相手…
- ・衣食住、全てにおいて任せられた。
- ・料理、洗濯、掃除
- ・食事を準備してくれた。その他、私が不便を感じないようにあらゆることをしてくれました。

- ・毎日3食バランスの良い食事を作っていた。掃除、洗濯もやって下さった。

②勉強面で世話をしてくれた人は誰ですか？どんなことをしてくれましたか？何か問題はありましたか？

○担任の先生（Ann, Jutta, Richard, Manuella, Filippa, シェリー, Becky, Fiona, Eva, Scott, マーク, デービッド）

- ・授業後の質問に答えてくれました。
- ・日々の授業
- ・英語の四技能を丁寧に教えてくれた。問題は無い。
- ・自分の勉強のやり方について、アドバイスをくれた。
- ・質問に対してわかりやすく、ゆっくりと教えてくれた。
- ・分からない点を明確に教えてくれた。
- ・一般的な英語
- ・全員親切で、話をよく聞いてくれた。
- ・授業で丁寧に説明してくださるのはもちろん、質問にも親切に答えてくれた。
- ・授業。とてもたのしかったし、ためになった。
- ・それぞれの先生が英会話のディスカッションの時間を適度にとってくれた。
- ・質問に答えて下さったり、writingを指導して下さいました。

○ホストファミリー

- ・宿題のチェック
- ・日常、会話しているときに、僕の言ったことが文法的に間違っていたら、訂正してくれた。

③その他で頼りになる人、世話をしてくれる人はいましたか？どんなことをしてくれましたか？何か問題はありましたか？

○Kylie ほか、グリフィス大学サポートデスクの様な場所にいらっしゃった方

- ・アクティビティの斡旋、詳細な説明、サポート
- ・仕事で忙しい中、笑顔を絶やさずに受け答えしてくれた。アクティビティやパスワード変更で最も動いてくれた人
- ・大学での世話

- ・学校内で分からないこと（コピー機の使い方など）があつて質問した時に、とても親切に対応してくれた。

○ルームメイト

- ・大学までのバスの行き方などを教えてくれた。
- ・学校までの行き方、バスの乗り方、家のルールとか。

○荒川先輩

- ・岐大生の体調を気遣ってくれていた。

d. 留学期間について（長いまたは短いと答えた人は何週間が適当か記入してください）

適当：12人

長い：0人

短い：5人

e. その他授業について困ったこと、先方に対する要望等自由に記入してください。

- ・困ったことはなく、特に要望もないくらい良かったです。
- ・大満足だった。
- ・日本人にとってはGE3の文法は少し簡単すぎると感じた。
- ・ホームステイの契約内容について、もっと詳しく知っておきたかったです（3食提供されるのが契約だと思っていたら、実際はそうでもなかったということを聞きました）。
- ・GE3の文法がかんたんだったこと。
- ・短期留学が決定する時期をもう少し早くして欲しかった。
- ・授業はとても分かりやすく、日本で学ぶよりも深い部分まで学べた。
- ・授業内容が簡単すぎて、退屈になったことがあった。

2. ホームステイについて

部屋の広さ：1部屋 30㎡：3人, 25㎡：1人, 16㎡：2人, 15㎡：2人, 12㎡：1人, 10㎡：1人, 7㎡：1人, 6㎡：1人, 5.5㎡：1人, 3㎡：1人

a. 部屋にあった設備を記入してください。

勉強机, クローゼット, 電気スタンド, 収納ケース, ゴミ箱, ティッシュ, ハンガー, 時計, ベッド, バスルーム, テレビ, 電話, 鏡, 扇風機

b. 食事はどうしていましたか？

- ・朝食は好きなものを選ばせてくれて、昼食は前日の夕食の残りなどをお弁当に、夕食はバイキング形式で、全てホストファミリーが準備してくれて、食事は一緒にとりました。手作りのおかしを持たせてくれたり帰るとティータイムにしてくれたり食事は充実していました。
- ・朝、夜は家で、お昼は作ってもらったものを食べました。
- ・朝は自分でトーストなどを焼いて、昼はマザーにサンドイッチなどを作ってもらい、夜は基本的に家で全員揃って食べていた。
- ・毎日3食出してくれて、どれもおいしかった。
- ・朝は自分でシリアル、昼食は毎日、弁当、夕食はマザーがつくってくれる。
- ・ホストマザーが全て作ってくれた。
- ・朝：自由に、昼：サンドウィッチ（休日も持たせてくれる）、夜：作ってくれて、遅くなったらあたためてくれる。
- ・基本、ホストマザーに作ってもらった。
- ・ホストマザーが作ってくれました。
- ・マザーかファザーがつくってくれた。
- ・朝はキッチンを使わせてもらって自分で用意しました。昼はホストマザーが作ってくれて、弁当として持たせてくれました。夜も用意してもらえました。
- ・マザー or ファザーがつくってくれた。ディナーは毎日ファミリー全員で食べた。
- ・朝：5週間すべてシリアル、昼：月～金 すべてサンドイッチ、土日 余りもの、夜：ごはんとおかずが1つ、おかず：チキンカレー、中華風の料理、ビーフとチキン
- ・朝：シリアルとフルーツ、休日はパンと卵焼き、紅茶、昼：サンドウィッチ、フルーツ、お菓子、ピザやピラフ、夜：スープ、パン、パスタやチキンなど、3食毎日作っていただいた。
- ・朝：トースト or シリアル（自分で用意）、昼：

ランチボックス、夜：週の半分は family と一緒。ときどき、作りおきしてくれたものを食べる。

- ・平日 朝、夜：家で、昼：つくってもらったものを大学で食べた。休日 朝、夜：家で、昼：出掛けるときは、つくってもらったものを食べるか、自分で買って食べた。

c. ホームステイ先での日常生活に関して困ったことがあれば記入してください。

- ・わかりやすい言葉でルール表を作ってくれたり、宿題を見てくれたりして、とても良くしていただき、困ったことはありませんでした。かぜを引いたときも服をかせてくれたり、ふとんを増やしてくれました。会話も多く、休日には一緒に外出しました。
- ・食事があまり口に合わなかったこと。
- ・Wi-Fi 環境が悪い。
- ・たくさん会話してくれたので、ある意味学校よりも英語の勉強になった。また、毎日の料理がとてもおいしかったので、食事面では何も困らなかった。彼らのおかげで、本当にオーストラリアが大好きになった。
- ・赤ちゃんの夜泣きが大変だった。夕食が2日、3日連続で同じのが出てきた。
- ・全く困りませんでした。
- ・特になし。ただ、洗濯はだいたい週に1回
- ・シャワーを浴びれる時間が少し短かった（約4分）。洗濯は出来たが、週に1回（土曜日）のみだった。又、洗濯機に脱水 or 乾燥機能がないためか、干すときに1つずつ絞らなければならなかった。→聞いてみたらあったが、その後、洗濯する機会がなかった。

d. ホームステイについて良かったこと・悪かったこと、要望など記入してください。

- ・ホームステイをして本当に良かったことばかりでした。ホストファミリーだけでなく、息子さん家族やいとこの家族、近所の家族など、たくさんの方があたたかくむかえてくれました。オーストラリアの優しい人たちに触れ、おいしい料理を楽しみ、家庭のことを知ることができました。
- ・実際に現地の人の生活ができて良かった。

- ・ごはんがおいしく、ファミリーは融通が効く人で、マザーもファザーも私に色々なことを教えてくれた。
- ・ファミリーが私を愛してくれた。朝が早い時も、夜遅い時も車で送り迎えしてくれた。
- ・自分の家のようにくつろげたので大変良かった。
- ・仲良くなったし、話し相手もいて楽しかった。
- ・よくしてくれたので感謝です。
- ・色々な所につれていってくれた。
- ・良かったこと：食事の準備など色々なことをやってもらえるので、生活について何も心配しなくてよかったこと。
- 悪かったこと：家で落ち着いて勉強できないこと（子供がいる家庭だった以上、仕方ないとは思いますが）。
- ・ファミリーと交流できて、オーストラリアを観光とは違う目線で楽しめた。ホームシックになることもなく、ファミリー、オーストラリアが大好きになった。
- ・良かったこと：自転車を貸してくれたこと、時間の拘束がなかったこと。
- 悪かったこと：食事のバラエティが少なすぎた。
- ・ホストマザーのつくる料理がとてもおいしく、食事は一日の楽しみとなっていた。
- ・学校から家までとても近かったので便利だった。食事もおいしくて大満足だった。ホストマザーも親切だった。
- ・キッチンなど家のものを自由に使っていいと言ってくれたのが良かった。部屋に鍵がついているのがよかった。

3. 生活全般について、トラブルがあればその対応も記入してください。

トラブル：大きなトラブルはない、強いて言うなら、バスが時間どおりにこなかったことくらい。

相談相手：

対 応：早めにバス停に行く。

トラブル：Wi-Fi がつながらない。

相談相手：

対 応：

トラブル：トラム（電車）に、緑色の go カードを使って乗っていたら、政府の方に尋問されて違反の紙をもらってしまった（私たちは長期滞在の学生ではないため、本来、緑色の go カードを使うことはできない）。

相談相手：ホストファミリー

対 応：ホストマザーが先方に電話で対応してくれた。後日、自分で青色の go カードを買って使うようにした。

トラブル：風邪をひいた。

相談相手：保険会社、ホストマザー、Griffith 大学の先生

対 応：Griffith 大学の Health Service を受けた。1人で病院に行ったので、高熱の中、英語を聞き取って話すのはとてもつらかった。大学内に医療サービスを受けられる場所があることを知らなかったのだったのでどうしたらいいか戸惑った。

4. 所要経費について（平均）

・支出総額 752,904 円

内訳

参加費 610,612 円（航空費・宿舎費含む）

食 費 18,069 円

保険料 23,882 円

その他 107,252 円

・参加費について

高い：10人 適当：5人 安い：0人

5. 出発までの学内の諸手続き、出発前の事前研修について気が付いたこと、要望があれば記入してください。

（学内の諸手続きについて）

- ・保険の手続きなど重要事項がメールで説明されて、メールが受け取れていなかった時困ったので、直接集まった時に説明したほうが良いと思います。
- ・早めにキャッシュパスポート、テレコムのレストランケータイは申し込んでおく必要があると思った。
- ・大満足でした。本当にお世話になりました。

ありがとうございます。

- ・ 最初の手続きのときの支援室の対応が冷たい。全体的に情報不足で渡航前なのに不安
- ・ ほとんどのことをやっていただき、とても助かった。感謝しています。
- ・ すべてやってくれてありがとうございます。
- ・ 岐阜大学からサマースクールについての情報が少ない（どのような日程、時間割なのか、ホームステイ先との契約内容など）。
- ・ 丁寧に教えていただけた上、連絡も徹底していたので特に不満はありません。
- ・ 岐大からサマースクールについての情報が少ない。
- ・ 詳しい説明と留学決定を4月にしてほしかった。
- ・ 保険の申込みについての説明が少なすぎた。メールも届いていなかった。
- ・ フライトや費用の決定が遅れて、手続きなど準備期間が短くなったことが困った。

（出発前の事前研修について）

- ・ 昨年の参加者から話を聞く機会がもっと早めにほしいです。可能なら語学研修にも参加して、アドバイスなどでできればよいと思います。
- ・ 参加者が少なかった。
- ・ せめて2週間前くらいにはしてほしかった。
- ・ スピーキングをよりやるべきだと思います。
- ・ 良い！
- ・ 経験者の話を聞いたのは、とても楽しかった。
- ・ テスト前で忙しくて行けなかった。
- ・ 他の人と知り合えることができたのでよかった。
- ・ 出発前から全員ともう少し仲良くなる場が欲しかった（参加する学生、しない学生がいるため）。
- ・ オーストラリアで必要な物、持参した方がよい物について、直前ではなくもっと前もって（6～7月中旬の事前研修等で）知っておきたかったです。
- ・ 遅すぎると思います。あと留学が決まったころ、一度交流会があるといいと思います。
- ・ 英会話できる唯一の機会だった。
- ・ どのようなことをやるか明確にしてほしい。
- ・ もう少し早くに直前の説明会を開いてほしかった（テスト後ではなくテスト前が良かった）。

た）。

- ・ 事前研修の時までには、もう少しメンバーやGriffith 大学での日程の情報がほしかった。留学先の情報が少なすぎると思う。
- ・ 2時間では長すぎて、集中力が持たないため、90分が丁度良い。

6. 短期留学に参加した感想を自由に書いてください。

- ・ 初の海外で不安もいっぱいでしたが、すばらしいホストファミリー、先生、友達に恵まれ、毎日が楽しくて、ずっと笑顔でいられました。一日一日前進できるよう、反省と改善をくり返し、将来の夢が決まったので勉強を頑張ることができました。ファミリーにたくさんの愛と幸せをもらって、私も周りの皆を幸せにしたい、もっといろんな人と話したいと、何にでも積極的になれました。恥ずかしいという気持ちに打ち勝つことができ、大きく変わることができました。
- ・ とても良い経験ができた。将来的に、留学したいと思っていたので、留学の具体的なイメージをすることができるようになった。
- ・ 英語や外国の文化、生活の仕方などをしっかり学べてとてもよかった。
- ・ 自分がいままでに、体験したことがないものでいっぱいだった。英語が楽しいものだと思えて思った。
- ・ 海外で生活するというのがどのようなものか知れた。また、今後、英語を勉強していくうえで、何を伸ばせばいいのか方向性が見えた。
- ・ 自分をとりまく環境が変わり、毎日が新鮮だった。
- ・ いろいろな人に会うことができ、とても刺激的な日々を送れた。考え方が変わった。
- ・ 自分のレベルが十分に分かりました。
- ・ ずっと留学に行きたいと思っており、とても今満足しています。早いうちに経験することができてよかったです。
- ・ 異国の地でさまざまな国の人と会い、新しい環境での生活を体験できたことは、一生の自分の財産となった。心暖かいホストファミリーと同じ時を過ごせて、オーストラリアの文化や人間の暖かみを感じ、来自分もこう

いう大人になりたいと思えた。

- ・色々なことがありましたが、暮らしは概ね快適で、実りある時間を過ごすことができました。勉強もその他の活動も存分にやり切ることができ満足しています。
- ・はじめはこの留学が最初で最後になると思っていたけど、参加して、また海外に行っているような経験をしたと思うようになった。
- ・オーストラリアについてからののはじめの1, 2週間目は色々慣れるのに大変でした。ですが、残りの3 ~ 5週間目は、自分のしたいことを探しながら冒険するといった形で時間が過ぎました。
- ・私の人生においてとてもためになるものとなった。すべての物の考え方が変わり、もっとグローバルな人間になりたいと思った。留学に関わった人すべてに感謝したい。
- ・オーストラリアでは現地スタッフの方々がとても親切にしてくださった。ホストファミリーにも恵まれ、良い環境で学ぶことができた。耳が英語に慣れていくのを実感できて、とても良い経験になった。
- ・5週間は長いと思っていたが、今になってはもっと良かった。参加前は不安も多かったが、飛び込んでみてよかったと思う。現地では話すことよりも、聞く方が大変だった。オーストラリアの人々は皆とても親切で何度も助けられた。また必ず行って恩返ししたい。
- ・語学学校には日本の他大学からの留学生もいたため、思っていた以上に日本人が多かったため、少し残念だった。中国人や韓国人、クウェート人の友達ができ、彼らとの会話を楽しむことができたので満足した。

7. 来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。

- ・キャッシュパスポートやレンタル携帯など手続きにあたり時間のかかるものは早めに準備を始めた方が良いです。しかし、行く前からあまり不安を感じる必要はないです。実際、行ってみれば何とでもなるし、失敗しても誰かが助けてくれるので、恐れずにどんどんいろんなことに挑戦してってください。そしてたくさんの人に積極的に話しかけてくださ

い。一番大切なのはどんなに些細なことでも感謝の気持ちを心から伝えてください。

- ・事前研修に、積極的に参加しよう。
- ・向こうに行っても、何でも積極的に参加するのが大事だと思った。
- ・人に話しかけてください、みんなとてもいい人たちです。
- ・ぜひ参加して、英語をしゃべってきてください。
- ・単語帳と文法の教科書をもっていきましょう。日本食はウケがいいのでお土産にぜひ。
- ・英語の勉強道具をなにかしら持参すると良い。
- ・事前に英語を勉強して上のクラスに入った方が、より能力も上がり充実できます。
- ・何事にも積極的に取り組む（日本人は消極的だと思われがちだから）、なるべく高いレベルのクラスに入る。クラスメイトとできるだけ多く会話し、他国の文化を学ぶ。
- ・go カード（岐阜でいうmanacaやayucaのようなもの）は青色を使うことをおすすめします。（交通費が少々かさむことになりますが、政府の方に尋問されるよりはマシだと思います）、また保湿クリームは必ず持参していきましょう。
- ・try が大事
- ・この留学は、5週間オーストラリアに住みながら、観光と勉強を両立することが可能です。もし、少しでも海外に興味があるなら参加してみるといいかもしれません。
- ・クラスメイト以外の友達をつくれ！現地の友達のほうが英語の発音がよく、自分のためになる。
- ・風邪をひいたと思ったら早めに South Port のオーストラリアフェアというショッピングセンター内にある「日本語医療センター」に行った方が良い。行きの荷物はなるべく少なくするべき。
- ・キャッシュパスポートとクレジットは両方あるといい。現金もある程度（\$200くらい）は持っているべき。人によっては通学にけっこう費用がかかる。ホストファミリーに過度な期待はしないほうがいい、家庭に差はある。
- ・洗濯回数が少ない（僕のホストファミリーは

週に1回)ので、服を多め(10日間分ぐらい)に持っていった方がよい。8月中旬は意外と寒いので厚手の服を持っていった方がよい。レターセットを持っていった方がよい。

8. お礼の手紙について

出した14人(誰に?ホストファミリー、大学の先生、大学の友達、ルームメイト)
出していない3人

ソウル科学技術大学

【アンケート回収率】100% 回収者3人(参加者3人)

1. 先方の大学での研修について

a. 履修した授業の内容(科目、授業の概要等)とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。

Korean Lecture

4.3点

- ・ハングルの読み書き、歌、あいさつ、簡単な会話、テスト。韓国語を初めて習う人向けのプログラム
- ・内容はよかったと思う。ただ、自分は日本でハングルを学んでいたのが最初は簡単だった。(韓国語のできる人に対して別でプリント配布など考慮はあった)でも英語で説明されたので勉強になると思い、みんなと授業を受けた。

b. 参加したアクティビティの内容とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。

Korean Movie

4.3点

Korean Music

4.5点

Korean Mask (Paint)

5.0点

Korean Traditional Cloth (Hanbok)

4.7点

Nanta Show (Watch Nanta Show)

5.0点

Taekwondo (Learn Taekwondo & Play Game)

4.7点

Traditional Percussion Quartet (Samulnori)

4.5点

Visit DDP (東大門デザインプラザ)

3.5点

K pop Cover Dance (Dance: BIGBANG Fantastic Baby)

5.0点

c. 先方の受け入れ体制について

①生活面で世話をしてくれた人は誰ですか?どんなことをしてくれましたか?

- ・寮であったため、始めに学生ボランティアが部屋まで案内してくれたくらい。

Batkishig Enkhbayar

- ・ボランティアのリーダーのような人
- ・チェ・スヨン
- ・空港へのピックアップ、見送り
- ・キム・ドヨン、キム・ヨンソン、イ・キョンテク、ヨン・スンモ、イ・キェヨン、イ・ヨンゴン、ノ・アラ、チョン・フェジェ、リヨ・ナヨン、ソ・ヨウォン、チェ・ミンギ、キム・ソンヒ、ノ・ミラン
- ・放課後、出かける時に、つきそいや案内してくれた。
- ・STISSの学生(ボランティア)、特に pick up してくれたミンキさん
- ・空港まで迎えに来てくれた、授業後出掛けるのについてきてくれたなど
- ・バット(プログラムの担当者的な…、STISSの先生かスタッフさん)
- ・点呼。プログラム全体の管理とか

②勉強面で世話をしてくれた人は誰ですか?どんなことをしてくれましたか?

大学の先生

- ・韓国語の講義をしてくれた。
- ・ハン・チュギョン、パク・ジョンウン、パク・ヨンミ、チェ・ヨンジン、キム・チョンジュ、アン・ユジン、イ・ウンジョン
- ・毎日の授業を担当してくれた。質問などにも答えてくれて、韓国語をすでに勉強していて、できる学生には、別の教材をくれた。
- ・パク先生、ハン先生、キム先生(韓国語の先生、class 1 担当)

- ・韓国語の授業。丁寧だったし楽しく教えてくれた。ただ、ある1人の先生は日本人を当てたりしてくれなかった…

③その他で頼りになる人、世話をしてくれる人はいましたか？どんなことをしてくれましたか？

学生ボランティア

- ・授業後、観光スポット等に案内してくれた。

d. 留学期間について

適当 2名

長い 0名

短い 1名（4週間が適当）

e. その他授業について困ったこと、先方に対する要望等自由に記入してください。

- ・丁寧に教えてくださった。質問に対応してくださった。日本人を避けてる先生がいたが、特別不利にされたわけではなかった。

2. 寮について

a. 部屋にあった設備を記入してください。例：扇風機等

- ・エアコン、勉強机、いす、本棚、ベッド（2段、枕、ふとん）、ユニットバス、くつ箱、ロッカー（ハンガーがかけられる。3つしきりがある）、コンセント、Wi-Fi（調子はいくれない）

b. 食事はどうしていましたか？

- ・寮のカフェテリアまたは外食
- ・朝は主にコンビニ、昼は食堂、夜は外食でした。食堂は無料です。
- ・朝：コンビニでパンなど、昼：食堂、夜：外食

c. 寮での日常生活に関して困ったことがあれば記入してください。

- ・Wi-Fiが使いにくく、ネット環境が悪い。
- ・良かったです!!特に要望はありません。
- ・特にない。ゴミをどこに捨てればよいかわからなかった。

d. 寮について良かったこと・悪かったこと、要望など記入してください。

- ・広くてキレイ

- ・良かった：きれいだったし、特に困らなかった。

悪かった：シャワーとトイレが近い…、Wi-Fiがつかない…

3. 生活全般について、トラブルがあればその対応も記入してください。

トラブル：・辛いものが食べられない。

- ・語学力が足りない。

相談相手：

対 応：・朝はコンビニへ。なるべく辛いものを食べるようにする

- ・がんばった。日本人で英語ができる人に頼る、どうしようもないところはどうしようもない。

4. 所要経費について

・支出総額 118,320 円

内 訳

参加費 50,017 円（航空費・宿舎費含む）

食 費 26,667 円

保険料 10,637 円

その他 31,000 円

・参加費について

高い 0名 適当 2名 安い 1名

5. 出発までの学内の諸手続き、出発前の事前研修について気が付いたこと、要望があれば記入してください。

（学内の諸手続きについて）

- ・提出書類が多すぎ。最小限に抑えてほしい。
- ・留学生支援室に行けばどうすればよいか分かったのでよかった。テストにかぶらない証明（学務にいてもよくわからなかった）や保険に入るデータがWebにUpされていなかったの、ややあせった。

（出発前の事前研修について）

- ・もう少し前に(早く)事前研修があればよかったと思います。
- ・やや遅いように思う。もう少し早く説明を聞

きたかった。準備もあるので、早く先輩の体験談や今までの資料をみたかった。英語の事前研修が受けれたのはよかった。

6. 短期留学に参加した感想を自由に書いてください。

- ・世界中の学生とコミュニケーションをとることができたことが、参加して良かったことである。学習意欲が沸いた。
- ・短期でしたが、毎日が濃くて、すごくすてきな経験ができたなと思います。いつもと違った環境に身をおいて、違った文化と交流することで、自分の視野や世界が広がりました。ありがとうございました。
- ・英語の大切さを実感した。しかし、英語ができなくても、一生懸命話しかけたり一緒に楽しもうとすることで他国の人と仲良くなれると感じた。韓国語を学んではいたが、もっと話せたらよかったと思った。韓国の文化にふれたり、他国の話をきいたり、楽しかった。思うように言葉を話したり、かかわったりできなくて辛いときもあったが、よい経験になった。寮での生活もためになった。参加してよかったと思う。支えてくださった方々に感謝している。

7. 来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。

- ・物怖じしないで、積極的にコミュニケーションをとって下さい。英語ができないのを理由

に黙っているのは勿体無いですよ。しゃべるかしゃべらないか、その努力をしようとするかが大切です。

- ・大事なのは、完ペキに話せることではなくて、話してみようと頑張ること、「あなたとコミュニケーションをとりたい!」という姿を見せることだと思います。全ての会話が英語で私はあまりうまく話すことはできなかったけれど、自分からすすんで話しかけることで、たくさんの方々ができました。できないと思わず、やってみることが、何よりも大切です!!
- ・Kakao Talk, Facebook をやれるようにしておくとい（LINE ができる人は少ない）。あと、ソウルの地下鉄の乗りつぎを検索できるアプリを出国前にインストールしておくとい。もしくは韓国の駅でマップをもらう。観光案内本もあるとい。ケータイはある程度、使えるように設定しておく（ケータイ会社の海外契約とか、Wi-Fi 端末を借りるとか）。私はほとんど Free Wi-Fi。海外 1 day も使った（24h：980円）。洗剤、ハンガー、プラグなどを持っていく。インターネットの配線を日本から持っていったが、なぜか使えなかったの、韓国で買ったほうがいいかも（PC のこと）。

8. お礼の手紙について

- 出した：1 名（誰に？：特にお世話になったボランティアの学生 4 人）
出していない：2 名

編集後記

今年度、留学生センターが担当したサマースクール（派遣）は、オーストラリアのグリフィス大学、韓国のソウル科学技術大学で実施し、23名の学生を派遣した。

一昨年より実施されるようになった「留学フェア」（4月23日）には100人の参加があり、盛会であった。私自身は上記2校のサマースクールについてPPIを使いながら説明し、個別の質疑・相談等にも対応した。さらに4月16日、5月14日の両日に、グリフィス大学のための説明会を実施した。5月中旬に説明会を行ったのは初めてだったが、連休明けの落ち着いた頃に再度宣伝することができ、効果的だったと感じている。ソウル科学技術大学は定員が3名だったためAIMSのみで募集した。木浦大学からは何の連絡もなかったため（様々な手段で、こちらからの働き掛けは行ったのだが）、今年は見送りとなった。

留学フェアの開催時点ですでに、グリフィス大学のサマースクールは15人分の奨学金（JASSO）を獲得していることを発表していたため、定員ちょうどの20名の応募があった。奨学金の支給に関しては、6項目の支給要件（成績評価係数、志望動機書、家計基準、他の奨学金との関連、等）に基づいて審査し、13名選出した。また、昨年設置された「岐阜大学短期海外研修奨学金助成」¹を1名が受給し、別の1名が優秀学生賞（40万円）を受給する等、昨年度の学生に比べ、恵まれた状況でサマस्कに参加することができたと言える。

参加決定後、6月16日～7月18日までの5週間、週3回（月曜日、水曜日、金曜日、1回2時間）計15回にわたって英語研修を実施した。今年も前期の試験期間を考慮して週3回に集中させたが、好評であった。講師はジュリエット・ヒルさん（シドニー工科大学からの交換留学生）、ロアン・マオさん（シドニー工科大学からの交換留学生）、武田憲人君（教育学部英語教育4年、12年度ルンド大学へ留学、小学生時代をアメリカで過ごす）、平田百さん（地域科学部4年、12年度シドニー工科大学へ留学）、金武李佳さん（教育学部生涯教育課程4年、13年度サンディエゴ州立大学へ留学）の5名であった。

7月23日には講師（海外留学生安全対策協議会服部誠氏）を招いて全渡航者を対象に「危機管理オリエンテーション」を実施して出発に備えた他、7月29日14:30よりソウル科技大学、8月6日13:30及び7日11:00よりグリフィス大学の各参加者に対し、出発前オリエンテーションを実施した。当日は生協、事務、派遣担当教員の他、前年度の参加者にも来てもらい、全般にわたるアドバイスを受けることができた。そして、このオリエン終了後、ようやくサマस्कに向け、各自の本格的準備が始まるのである。

各大学でのサマースクールの様子は本報告書に詳しいが、今年度のグリフィスサマस्कのリーダー荒川君からは、期間中に3回詳しい報告があり、帰国直後の連絡もあったためサマस्कの様子がよく分かり嬉しかった（逆に、ソウル科技のリーダーからは一度も連絡がなかった…）。帰国後、参加者全員と会い、サマースクールの報告を聞くことができた。また、12月10日の留学報告会「私たちの留学の“真実”」でも、2校の代表者が力の入った報告をしてくれた。加えて、グリフィス参加者はサマースクールの思い出を模造紙2枚にまとめてくれたが、報告会終了後は留学生センターのラウンジに展示し多くの人にってもらっている。

説明会から帰国、そして報告会まで、担当者の立場からは心配の多い数か月ではあったが、サマースクールで各自が得たもの、考え決意したことを忘れず、日々の生活の中で生かしていったほしいと願うばかりである。さらに、今年もJASSO報告書・本報告書のチェックには時間を割いたが、母国語にもっと親しみ、表現力、理解力の向上にも努めてもらいたいとしみじみ感じている。

留学支援室の迫千尋氏、生協の佐々木英之氏、留学生センターの粥川美重子氏、英語研究の講師を引き受けてくれた5名の学生たち、説明会や交流会に参加してくれた前年度の参加学生たち、等々大勢の協力により今年のサマースクールを実施することができた。改めて感謝の意を表したい。

（留学生センター 太田孝子）

¹ 学部学生で6ヶ月未満の短期海外研修を行おうとする者を対象に、所属学部長の推薦に基づき奨学生を選考、支給額は1人10万円を限度に、年間20人程度に奨学金を支給している。

岐阜大学夏期短期留学

サマースクール2014報告書

〒501-1193	岐阜市柳戸 1-1
発行年月日	2014年12月
発行者	岐阜大学
電話	058-293-3392
FAX	058-293-3491
印刷	西濃印刷株式会社



Gifu University International Student Center - Gifu University International Student Center

